4-418-713-**03** (1)

マイクロハイファイ
コンポーネントシステム

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。**
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

CMT-V70B/V50

⚠警告　安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

以下の注意事項をよくお読みください。

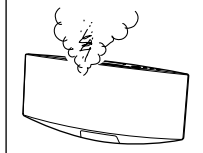
定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードセットに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、電源プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードセットなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーの相談窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

1. **電源を切る。**
2. **電源プラグをコンセントから抜く。**
3. **お買い上げ店またはソニーの相談窓口に修理を依頼する。**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

指のケガに注意

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

接触禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示

プラグをコンセントから抜く

目次

準備

CDを聞く

“ウォークマン”を楽しむ

次のページにつづく

Bluetooth接続で聞く

その他の操作と設定

使用上のご注意・主な仕様

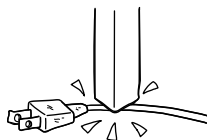
警告

下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

電源コードセットを傷つけない

電源コードセットを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードセットを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードセットを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

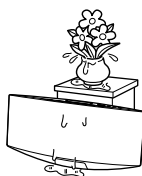
万一、電源コードセットが傷んだら、お買い上げ店またはソニーの相談窓口に交換をご依頼ください。

禁止

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

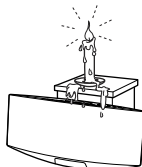
上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。

禁止

内部に水や異物が入らないようにする

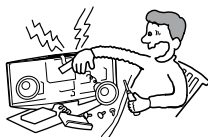
水や異物が入ると火災や感電の原因となります。本機の上に花瓶など水の入ったものを置かないでください。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。

禁止

本機の上にローソクを置かない

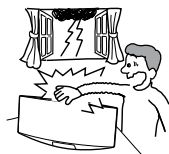
本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火炎源を置かないでください。火災の原因となります。

禁止

下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

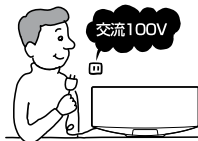
キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーの相談窓口にご依頼ください。

分解禁止

雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグに触れない

本機やアンテナ線、電源プラグなどに触れると感電の原因となります。

接触禁止

本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。

指示

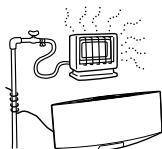
付属のACアダプターについて

付属のACアダプターは本機専用です。他の電気機器では使用できません。また、他の電気機器のACアダプターも使用できません。

禁止

ガス管にアンテナ線をつながない

火災や爆発の原因となります。

禁止

⚠注意　下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財に損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

風通しの悪い所に置かない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

禁止

付属の電源コードセットについて

付属の電源コードセットは、本機専用です。他の電気機器では使用できません。

禁止

幼児の手の届かない場所に置く

ディスクの挿入口などに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。

指のケガに注意

大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときにご注意ください。
呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。

禁止

⚠注意 下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財に損害**を与えたりすることがあります。

はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音が出て耳をいためることがあります。ボリュームは徐々に上げましょう。特に、雑音の少ないデジタル機器をヘッドホンで聞くときにはご注意ください。

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所の強度も充分に確認してください。

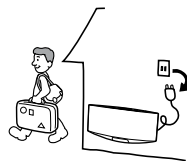
電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。
通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離されません。

コード類は正しく配置する

本機に取り付ける電源コードセットやAVケーブルは、足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。

長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

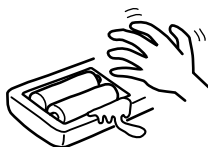
プラグをコンセントから抜く

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による**大けが**や**失明**を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、数時間たってから症状が現れることもあります。

接触禁止

必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

指示

⚠警告

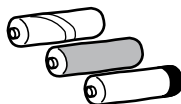
電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。
万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

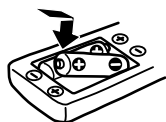
電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水で濡らさない

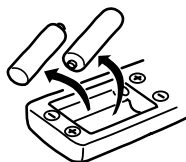
破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

＋とーの向きを正しく入れる

＋とーを逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

録音についてのご注意

- 大切な録音の場合は、必ず事前にためし録りをし、正常に録音されていることを確認してください。
- 本機を使用中、万一不具合により録音されなかった場合の録音内容の補償については、ご容赦ください。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

正常な使用状態で本製品に故障が生じた場合、当社は本製品の保証書に定められた条件にしたがって修理を致します。ただし、本製品の故障、誤動作または不具合により、録音、再生などにおいて利用の機会を逸したために発生した損害等の付随的損害の補償については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

CD再生時のご注意

本製品は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本製品で再生・録音できない場合があります。

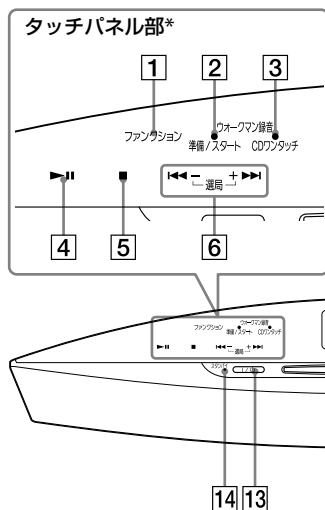
DualDiscについてのご注意

DualDiscとはDVD規格に準拠した面と、音楽専用面とを組み合わせた新しい両面ディスクです。なお、この音楽専用面はコンパクトディスク（CD）規格には準拠していないため、本製品での再生は保証いたしません。

商標について

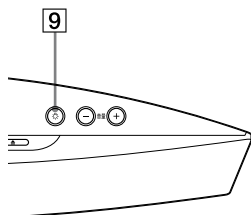
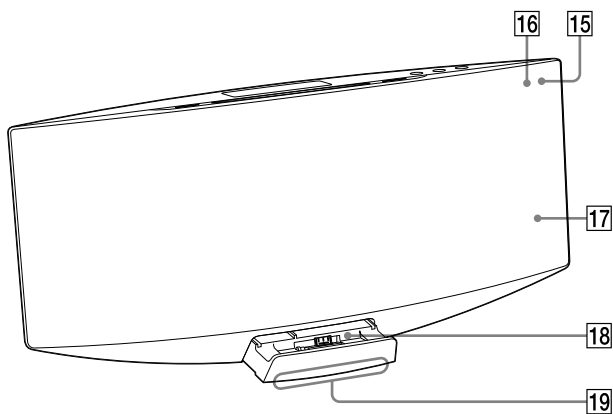
- “ウォークマン”、“WALKMAN”、“WALKMAN”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。
- 本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。
- Bluetooth とそのロゴマークは、Bluetooth SIG,INC. の商標で、ソニーはライセンスに基づき使用しています。その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。

各部の名前と働き

本体（上面）（CMT-V70B）

* お買い上げ時はタッチパネルを操作すると操作音が鳴るように設定されています。タッチパネルの操作音は鳴らないように設定することもできます（57ページ）。

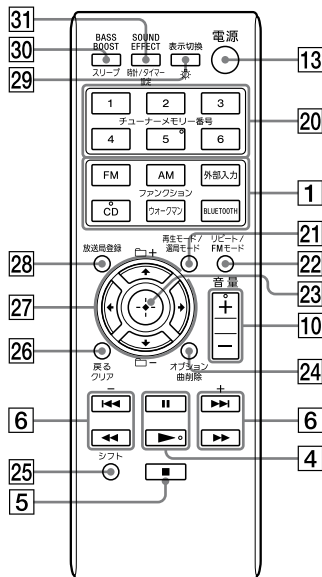
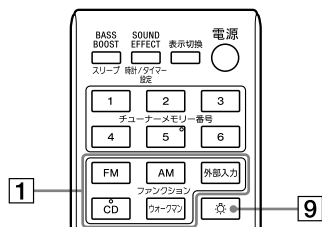
本体（上面）（CMT-V50）

本体（前面）

次のページにつづく

リモコン

CMT-V70B（RM-AMU144）

CMT-V50（RM-AMU143）

[*1] CMT-V70Bのみ
[*2] CMT-V50のみ

- 本書では、リモコンのボタンを使った操作説明を主体にしています。リモコンと同じ名前の本体のボタンは、同じ働きをします。
- リモコンにピンク色で表示されている機能を操作する場合は、シフトボタン[25]を押しながら該当のボタンを押してください。ピンク色で表示されている機能が働きます。シフトボタン[25]を押さずに該当のボタンを押したときは、白色で表示されている機能が働きます。

[1] ファンクションボタン

本体：ファンクションボタン

ボタンを押すたびにCD→WALKMAN→BLUETOOTH[*1]→FM→AM→AUDIO INの順にファンクションが切り換わります。

リモコン：FM、AM、外部入力、CD、ウォークマン、BLUETOOTH[*1]ボタン

切り換えたいファンクションのボタンを押します。

[2] ウォークマン録音 準備／スタートボタン

CDやMP3ディスク、ラジオ、本機に接続した外部機器からの曲を“ウォークマン”に録音します（34、35、37、38ページ）。

[3] ウォークマン録音 CDワンタッチボタン

CDやMP3ディスクの全曲をワンタッチで“ウォークマン“に録音します（32ページ）。

[4] 再生／一時停止ボタン

本体：▶II ボタン

リモコン：▶、II ボタン

CDやMP3ディスク、“ウォークマン”、Bluetooth接続[*1]した曲を再生／一時停止します。

[5] ■（停止）ボタン

- CDやMP3ディスク、“ウォークマン”、Bluetooth接続[*1]した曲を停止します。

- "ウォークマン"への録音を停止します。

6 ラジオ選局／曲操作ボタン

本体：選局+/−、⏮/⏭ ボタン

- 選局+/−ボタン
  聞きたいラジオ局の周波数や、登録したラジオ局のプリセット番号を選びます。
- ⏮/⏭ ボタン
  曲の頭出しをします。押している間、曲の早戻しや早送りをします。

リモコン：+/−、⏮/⏭、⏪/⏩ボタン

- +/−ボタン
  聞きたいラジオ局の周波数や、登録したラジオ局のプリセット番号を選びます。
- ⏮/⏭ボタン
  曲の頭だしをします。
- ⏪/⏩ボタン
  曲の早戻しや早送りをします。

7 表示窓

本機の設定状態などを表示します。

8 (Bluetooth)ボタン[*1]

Bluetooth機器と接続／切断、ペアリングするときに使います（47、48、50ページ）。

9 (イルミネーション)ボタン[*2]

"ウォークマン" ドックランプの点灯を入／切します。

10 音量+/−ボタン

音量を調節します。

11 ⏏（イジェクト）ボタン

CD、MP3ディスクを取り出します（24、25ページ）。

12 ディスクスロット

CD、MP3ディスクの挿入口です（24ページ）。

13 I/⏻（電源）ボタン

本機の電源を入／切します。

14 スタンバイランプ

本機の電源の状態をランプでお知らせします。詳しくは、「ファンクションランプ／スタンバイランプについて」（17ページ）をご覧ください。

15 ファンクションランプ

現在のファンクションをランプの色でお知らせします。詳しくは、「ファンクションランプ／スタンバイランプについて」（17ページ）をご覧ください。

16 録音ランプ

"ウォークマン" に録音中、赤色に点灯します。

17 リモコン受光部

18 WM-PORTコネクター（"ウォークマン"接続端子）

別売りの "ウォークマン" を接続します（21ページ）。

19 "ウォークマン" ドックランプ

"ウォークマン" ドックランプを「オン」または「オフ」します。「オン」にすると、本機の状態や、リモコンからの信号受信をランプでお知らせします。CMT-V70Bは青色、CMT-V50は白色のランプでお知らせします。

- 本機の電源を入れると、青色(白色)に少しずつ明るく点灯します。
- 本機の電源を切ると、少しずつ暗くなり消灯します。
- リモコンからの信号を受信すると青色(白色)に点滅します。

次のページにつづく

20 チューナーメモリー番号ボタン

本機に登録したプリセット番号1から6のラジオ局を呼び出します(52ページ)。

21 再生モード/選局モードボタン

- 再生モードボタン
  CD、MP3ディスクの再生モードを選択します(25、27、28、35ページ)。
- 選局モードボタン
  ラジオ局の選局モードを切り換えます。ボタンを押すたびに「AUTO」→「PRESET」→「MANUAL」の順に切り換わります(51、52ページ)。

22 リピート/FMモードボタン

- リピートボタン
  曲を繰り返し聞くときに使います(25ページ)。
- FMモードボタン
  FM放送のステレオ受信、モノラル受信を切り換えます(51ページ)。

23 ⊕(決定)ボタン

操作や設定を確定します。

24 オプション/曲削除ボタン

- オプションボタン
  "ウォークマン"の操作時に押すと、"ウォークマン"のOPTIONボタンと同じ操作ができます(NW-S764/S765/S766、NW-S764K/S765K、NW-S764BT、NW-E062/E063、NW-E062K/E063Kのみ(2012年5月現在))。
- 曲削除ボタン
  本機に接続した"ウォークマン"の曲やフォルダの削除を開始します。
  シフトボタン25を押しながら曲削除ボタン24を押してください(44、45ページ)。

25 シフトボタン

リモコン上に、ピンク色で表示されているボタン名の機能を有効にします。
シフトボタン25を押しながらピンク色で表示されているボタンを押すと、ピンク色の機能が有効になります。

26 戻る/クリアボタン

- 戻るボタン
  操作前の状態に戻します(41、44、45ページ)。
  "ウォークマン"の操作時に押すと、"ウォークマン"のBACKボタンと同じ操作ができます(NW-S764/S765/S766、NW-S764K/S765K、NWS764BT、NW-E062/E063、NW-E062K/E063Kのみ(2012年5月現在))。
- クリアボタン
  プログラムした曲をプログラムから消します(28、48ページ)。
  シフトボタン25を押しながらクリアボタン26を押してください。

27 操作ボタン

- ↑/↓/←/→ボタン
  項目を選択したり、設定を変更します。"ウォークマン"の操作時に押すと、"ウォークマン"の▲/▼/◀/▶ボタンと同じ操作ができます(NW-S764/S765/S766、NW-S764K/S765K、NW-S764BT、NW-E062/E063、NW-E062K/E063Kのみ(2012年5月現在))。
- 🗀 +/−ボタン
  MP3ディスクのフォルダ(アルバム)を選択します。

28 放送局登録ボタン

ラジオ局をプリセット登録します(52ページ)。

[*1] CMT-V70Bのみ
[*2] CMT-V50のみ

29 表示切換／☼（イルミネーション）[*1] ボタン

- 表示切換ボタン
  表示窓に表示される内容を切り換えます（22、30、50、53ページ）。
- ☼（イルミネーション）[*1] ボタン
  “ウォークマン” ドックランプの点灯を入／切します。
  シフトボタン25を押しながら☼ボタン29を押してください。

30 BASS BOOST ／スリープボタン

- BASS BOOST（バスブースト）ボタン
  バスブースト（低音増強）を「オン」または「オフ」に設定します（53ページ）。
- スリープボタン
  スリープタイマーを設定します。
  シフトボタン25を押しながらスリープボタン30を押してください（55ページ）。

31 SOUND EFFECT ／時計/タイマー設定ボタン

- SOUND EFFECT（サウンドエフェクト）ボタン
  ボタンを繰り返し押して、お好みのサウンド効果を設定します（53ページ）。
- 時計/タイマー設定ボタン
  時計や再生タイマーを設定します。
  シフトボタン25を押しながら時計/タイマー設定ボタン31を押してください（22、55、56ページ）。

ファンクションランプ 15 ／スタンバイランプについて 14

ファンクションランプ

各ファンクションごとのランプの色は以下のとおりです。
リモコンのファンクションボタン1と同じ色が点灯します。

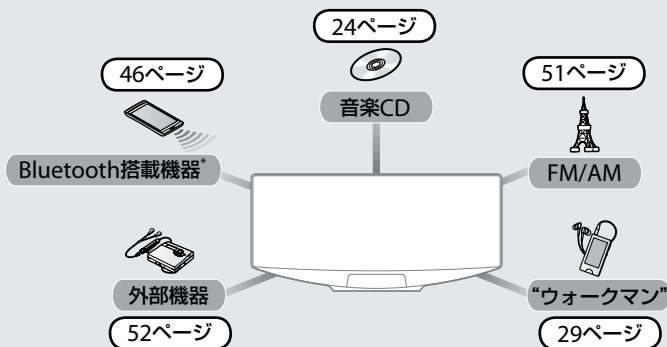
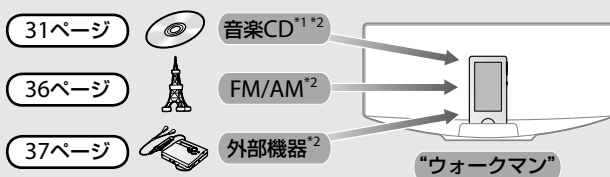
ファンクション	リモコンボタン	ランプの色
FM	FMボタン	ピンク色
AM	AMボタン	水色
AUDIO IN	外部入力ボタン	橙色
CD	CDボタン	黄色
WALKMAN	ウォークマンボタン	白色
BT AUDIO (Bluetooth)[*1]	BLUETOOTHボタン[*1]	青色

[*1] CMT-V70Bのみ

スタンバイランプ

モデル名	ランプの状態	本機の状態
CMT-V70B	消灯	電源が入っている状態
	赤色に点灯	スタンバイモード中（本機の電源オフ状態）
	青色、赤色が交互に点灯	Bluetoothスタンバイモード中[*1]（本機の電源オフ状態）
	赤色に点滅	異常を検出[*2]
CMT-V50	消灯	電源が入っている状態
	赤色に点灯	スタンバイモード中（本機の電源オフ状態）
	赤色に点滅	異常を検出[*2]

[*1] CMT-V70Bのみ
[*2] 「スタンバイランプが点滅しているときは」（63ページ）をご覧ください。

本機の楽しみかた

*1 音楽CDの全曲をワンタッチで"ウォークマン"に録音できます（32ページ）。

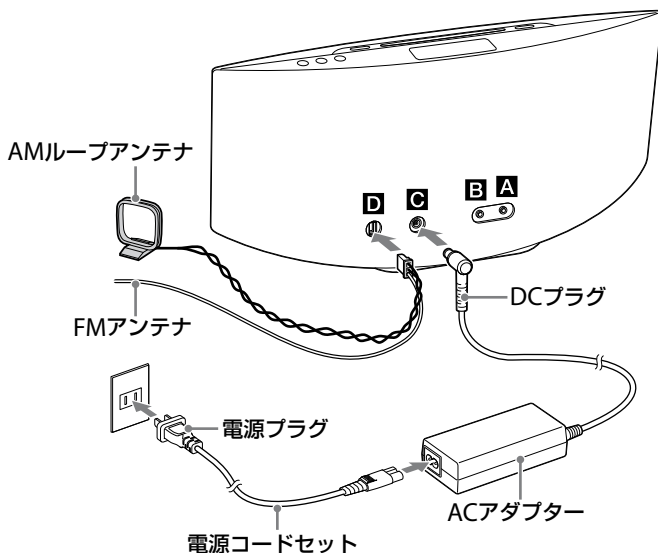
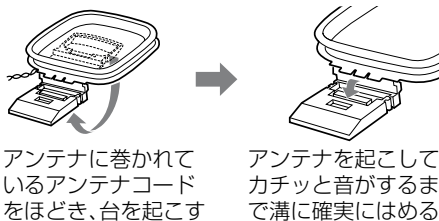
*2 音楽CDやラジオ、本機に接続した外部機器からの曲を"ウォークマン"に録音できます（33、36、37ページ）。

録音に対応している"ウォークマン"については、「"ウォークマン"の再生・録音・削除対応機種について」（29ページ）をご覧ください。

接続する

AMループアンテナをセットするには

アンテナに巻かれているアンテナコードをほどき、台を起こす

アンテナを起こしてカチッと音がするまで溝に確実にはめる

A 🎧（ヘッドホン）端子

ヘッドホンを接続します。

B AUDIO IN（外部入力）端子

別売りのオーディオケーブルを使って外部入力機器を接続します。

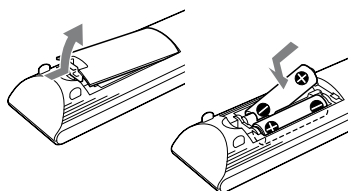
C DC入力 19.5 V（電源）

すべての機器を接続したあと、図のようにコンセントにつないでください。

D アンテナ（FM/AM）

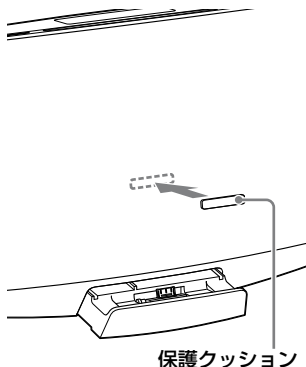
アンテナを接続しないとラジオ放送を受信できません。
受信状態の良い場所や方向を探して設置してください。
雑音の原因になるため、AMループアンテナは本体や電源コードセット、他のAV機器から離してください。
FMアンテナは、先端をテープなどで固定してください。

リモコンに電池を入れる

⊕と⊖の向きを合わせて、リモコンに単3形乾電池（R6、付属）2個を入れます。イラストのように⊖極側から入れます。

ご注意

- 電池の使いかたを誤ると、液漏れや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
  - ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
  - 新しい電池と使った電池、または種類の違う電池を混ぜて使わないでください。
  - 電池は充電しないでください。
  - 長い間リモコンを使わないときは、電池を取り出してください。
  - 液漏れしたときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部 17 に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにしてください。リモコンで操作できないことがあります。
- 電池の交換時期は約6か月です。リモコンを本体に近づけないと操作しづらくなったら、2個とも新しい電池に交換してください。

保護クッションを取り付ける

WM-PORTコネクター 18に“ウォークマン”を接続したときに、本機と“ウォークマン”が直接接触しないように保護シートを取り付けます。

ご注意

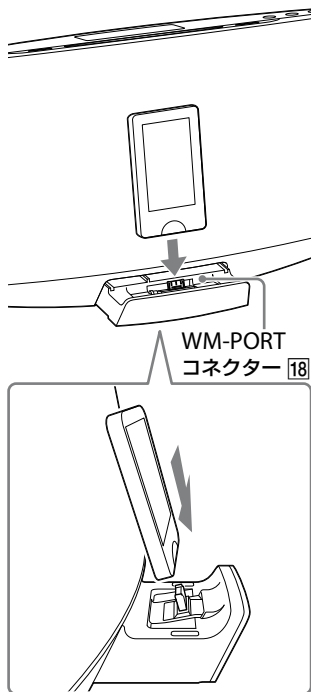
背面に操作部のある“ウォークマン”を使用する際は、保護クッションに接触して誤操作しないようご注意ください。

“ウォークマン”を本機に接続する

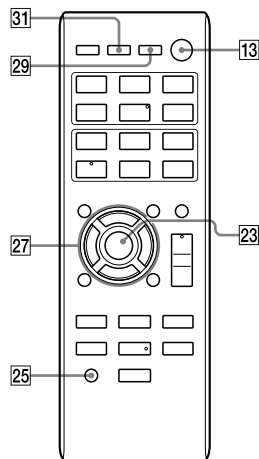
本機で“ウォークマン”を楽しむときは、“ウォークマン”ドックを開き、WM-PORTコネクター 18に“ウォークマン”を接続します。
本機はアタッチメントの取り付けは必要ありません。WM-PORTコネクター 18に“ウォークマン”を直接接続してください。
本機が対応する“ウォークマン”については、「“ウォークマン”の再生・録音・削除対応機種について」(29ページ)をご覧ください。

1 “ウォークマン”ドックの中央部を押して、“ウォークマン”ドックを開く。

2 WM-PORTコネクター 18 に“ウォークマン”を接続する。

ご注意

“ウォークマン”をはずす際に、本機が転倒しないようご注意ください。

時計を合わせる

リモコンのボタンを使って時計を合わせます。

1 I/⏻（電源）ボタン13を押して、電源を入れる。

2 シフトボタン25を押しながら、時計/タイマー設定ボタン31を押す。

「PLAY SET」が点滅するときは、↑/↓ボタン27を繰り返し押して「CLOCK」を選び、⊕ボタン23を押してください。

3 ↑/↓ボタン27を繰り返し押して「時」を合わせ、⊕ボタン23を押す。

4 「時」と同じ手順で「分」を合わせ、⊕ボタン23を押す。

ご注意

停電になったり、電源プラグやDCプラグなどが抜け電源供給がなくなると、時計設定は解除されます。

電源が切れているときに時計を確認するには

表示切換ボタン㉙を繰り返し押して、時計を表示させます。時計は約8秒間表示されます。

オートスタンバイ機能について

本機にはオートスタンバイ機能がついています。このオートスタンバイ機能によって、無操作または無音の状態が30分経過すると本機は自動的にスタンバイモードに移行します。
スタンバイモードに移行するときは、移行する2分前に「AUTO. STBY」が表示されます。

お買い上げ時の初期設定では有効になっていますが、本体のボタンを使ってオートスタンバイ機能を切ることができます。

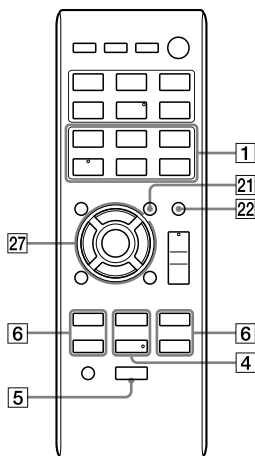
1 本機の電源が入っているときに、「AUTO. STBY OFF」が表示されるまで本体のI/⏻ボタン⑬を押し続ける。

- オートスタンバイ機能を「オン」にするには、「AUTO. STBY ON」が表示されるまで本体のI/⏻ボタン⑬を押し続けてください。

ご注意

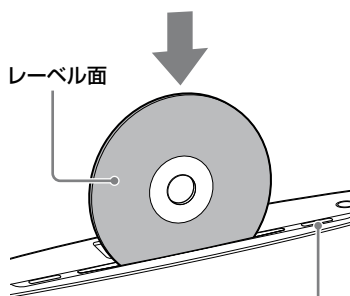
- オートスタンバイ機能を有効にしていても、FM、AMファンクションをお使いのときは無効となり、スタンバイモードへ移行しません。
- オートスタンバイ機能を有効にしていても、次の状態のときにはスタンバイモードへ移行しません。
  – 音声信号を検出したとき。
  – 曲を再生しているとき。
  – 再生タイマーまたはスリープタイマー開始のための処理が始まったとき。
- オートスタンバイ機能を有効にした状態で次の操作を行うと、オートスタンバイモードへ移行するまでの時間（30分）をリセットして再カウントします。
  – “ウォークマン”を接続したとき。
  – 本体またはリモコンの操作ボタンを押したとき。

CDを聞く

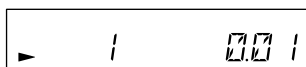
CD/MP3ディスクを再生する

1 **CDファンクションボタン1を押す。**

ファンクションランプが黄色に点灯します。

- 本体では、ファンクションボタン1を繰り返し押して表示窓に「CD」を表示させます。

2 **レーベル面を手前にして、ディスクをディスクスロットにセットする。**

≜(イジェクト)11
ディスクを取り出します。

「READING」の点滅表示が消えると、自動的に再生を開始します。

- ディスクが挿入されている状態で、他のファンクションからCDファンクションへ切り換えた場合は、►ボタン4(本体では►II4)を押して、再生を開始してください。

「NO DISC」が表示されたときは
ディスクが入っていないまたは本機では再生できないディスクを挿入しています。「使用上のご注意」(58ページ)をご覧になり、再生できるディスクを挿入してください。

ご注意

- 表示窓に「NO DISC」が表示されていないときは、ディスクはディスクスロットに挿入できません。無理にディスクを挿入しないでください。
- 表示窓に「NO DISC」が表示されている状態でディスクを挿入できない場合は、ディスクスロットにディスクが入っている場合があります。その場合は、≜11を

押し続けてください。ディスクを強制的に取り出すことができます。それでも取り出せない場合は、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。

- 表示窓に「LOCKED」が表示され、ディスクを取り出せない場合は、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。
- 特殊な形状（ハート型、カード型、星型など）のディスクを挿入しないでください。内部でディスクが落ち込み、修復不能な損傷を本機に与えるおそれがあります。
- ディスクをディスクスロットに挿したままの状態で、本機の電源を切らないでください。ディスクを落として傷つけるなどの原因になります。
- テープやシールの貼られたディスク、接着剤ののりが付着したディスクなどは、故障するおそれがあるため、本機では使わないでください。
- ディスクを取り出すときは、記録面に触れないようご注意ください。
- 変換アダプターを使用して標準サイズにした8cmディスクは、本機の故障の原因となるためお使いになれません。

その他の操作

こんなときは	操作
一時停止する	❚❚ボタン（本体では▶❚❚ボタン）4を押す。もう一度押すと再生を再開します。
再生を止める	■ボタン5を押す。
曲を選ぶ	⏮/⏭ボタン6を押す。
曲中の聞きたい部分を探す	再生中に◀◀/▶▶ボタン6（本体では⏮/⏭ボタン6）を押し続け、聞きたいところで指を離す。
曲を繰り返し聞く	リピートボタン22を繰り返し押して、「↻」（全曲リピート再生）または「↻1」（1曲リピート再生）を点灯させる。
MP3ディスク内のフォルダを選ぶ	📁 +/–ボタン27を繰り返し押す。
ディスクを取り出す	本体の⏏ボタン11を押す。

再生モードを変えるには

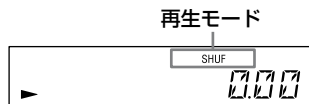
ディスクの停止中に再生モードボタン21を繰り返し押して、再生モードを切り換えます。再生モードは、以下のとおり切り換わります。

ノーマル再生（「なし」または「FLDR」点灯*）→シャッフル再生（「SHUF」または「FLDR SHUF」点灯*）→プログラム再生（「PGM」点灯）

次のページにつづく

再生モード

SHUF

0.00

* 「FLDR」または「FLDR SHUF」を選択しているときは、MP3ディスク内の選択したフォルダ（アルバム）を再生対象にします。このとき、フォルダ内の全曲が再生されます。

CD（CD-DAディスク）が再生対象のときは、ノーマル再生「なし」またはシャッフル再生「SHUF」と同じ動作となります。

「PUSH STOP」が表示されたときは

再生中は再生モードの変更はできません。停止してから再生モードを変更してください。

リピート再生についてのご注意

- 「↺」は、再生を停止するまで全曲を繰り返し再生します。
- 「↺1」は、再生を停止するまで再生中の1曲だけを繰り返し再生します。

シャッフル再生についてのご注意

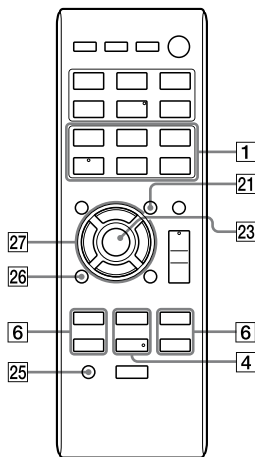
- 「SHUF」は、ディスク内の全ての曲をシャッフル再生します。「FLDR SHUF」は、選択しているフォルダ内の曲をシャッフル再生します。
- 本機の電源を切ると、選択していたシャッフル再生モード（「SHUF」または「FLDR SHUF」）はリセットされ、ノーマル再生（「なし」または「FLDR」）モードとなります。

MP3ディスクについてのご注意

- MP3ディスク作成の際には、不要なフォルダやファイルをMP3ファイルといっしょに記録しないでください。
- フォルダ内にMP3ファイルが存在しない場合は、このフォルダは表示されません。
- ファイル名に「.mp3」の拡張子を持つオーディオファイルのみが再生対象となります。
- ファイル名に「.mp3」の拡張子を持っていても、MP3形式のオーディオファイルでない場合には再生されません。このようなファイルの再生は、大音量のノイズとなり、本機の故障の原因となることがあります。
- MP3ディスクに対する本機の上限は次のとおりです。
  - 最大フォルダ数：999*（ルートフォルダ含む）
  - 最大ファイル数：999
  - 1つのフォルダ内で認識可能な最大ファイル数：250
  - 認識可能な最大階層（フォルダ）レベル：8
- 本機は、エンコードソフトウェアや書き込み用ソフトウェア、CD-R/RWドライブ、使用メディアなど、MP3ディスクの作成に必要な機器やソフトウェアのすべてを保証するものではありません。作成したMP3ディスクが本機での再生に適さない場合、ノイズが再生される、再生が途切れる、まったく再生されないなど、不具合が発生するおそれがあります。

* MP3ファイルが存在しないフォルダ、空フォルダも含まれます。フォルダ構成によっては本機で認識できるフォルダ数が少なくなる場合があります。

好きな順に曲を聞く
（プログラム再生）

リモコンのボタンを使ってプログラム登録をします。

1 CDファンクションボタン1を押す。

ファンクションランプが黄色に点灯します。

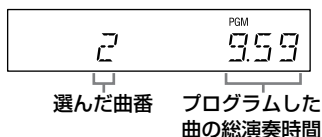
- 本体では、ファンクションボタン1を繰り返し押して表示窓に「CD」を表示させます。

2 停止中に再生モードボタン21を繰り返し押して「PGM」を点灯させ、プログラム再生モードを選ぶ。

3 フォルダを選ぶ（MP3ディスクのみ）。

- フォルダ +/－ボタン27を繰り返し押して、プログラムしたいフォルダを選びます。
- フォルダ内の全曲をプログラムしたい場合は、⊕ボタン23を押してください。

4 曲を選ぶ。

- ⏮/⏭ボタン6を繰り返し押して、プログラムしたい曲を選びます。

5 ⊕ボタン23を押す。

- プログラムした曲の総演奏時間が100分を超える場合や、MP3ファイルをプログラムした場合には「– –.– –」と表示されます。

6 手順3 ～ 5を繰り返してプログラムする。

- 最大25曲までプログラムできます。

「FULL」が表示されたときは

26曲目を登録しようとしています。「プログラムを消すには」（28ページ）をご覧になり、プログラムを消してから登録し直してください。

7 ▶ボタン4を押す。

プログラム再生が始まります。

- 本体では、▶❚❚ボタン4を押します。
- 登録したプログラムは、ディスクを取り出したり、電源コードセットを抜かない限り保持されます。
- プログラム再生後、同じプログラムを再生するには、▶ボタン4を押してください。

次のページにつづく

プログラム再生を中止するには

停止中に、「PGM」が消えるまで再生モードボタン21を繰り返し押します。

プログラムを消すには

停止中に、シフトボタン25を押しながら、クリアボタン26を押します。
ボタンを押すたびに、最後にプログラム登録した曲から消えます。
登録していたプログラムをすべて消去すると、「NO STEP」が表示されます。

"ウォークマン"ご利用の前に

対応機種以外の"ウォークマン"は使用しないでください。対応機種以外の機種の動作は保証しておりません。

"ウォークマン"の再生・録音・削除対応機種について

動作確認済み機種(2012年5月現在)

シリーズ	機種名	再生	録音	削除
Aシリーズ	NW-A845/A846/A847 NW-A855/A856/A857 NW-A865/A866/A867	○	○	○
Sシリーズ	NW-S644/S645 NW-S644K/S645K	○	○	○
	NW-S744/S745/S746 NW-S744K/S745K	○	○	○
	NW-S754/S755/S756 NW-S754K/S755K NW-S764/S765/S766 NW-S764K/S765K NW-S764BT	○	○	○
Eシリーズ	NW-E052/E053 NW-E052K/E053K NW-E062/E063 NW-E062K/E063K	○	○	○
Xシリーズ	NW-X1050/X1060	○	○	○
Zシリーズ	NW-Z1050/Z1060/Z1070	○	○	○

最新の対応機種については、下記ホームページの機種別サポートをご覧ください。http://www.sony.jp/support/netjuke/

ご注意

表に記載されている動作確認済み機種(2012年5月現在)より以前に製造された機種については、録音、削除には対応しておりません。

次のページにつづく

ご注意

- “ウォークマン”をフォーマットするときは、“ウォークマン”本体の機能（メモリーの初期化機能）を使ってフォーマットしてください。他の方法でフォーマットした場合、本機からの録音が行えないなどの不具合が発生するおそれがあります。詳しくは、“ウォークマン”の取扱説明書をご覧ください。
- 本機は“ウォークマン”の動作のすべてを保証するものではありません。
- 本機に“ウォークマン”を接続するときは、「データベース作成中」の表示が“ウォークマン”の表示窓から消えていることを確認してから接続してください。
- 録音中や削除中に、本機から“ウォークマン”をはずさないでください。“ウォークマン”のデータが破損したり、“ウォークマン”本体が故障するおそれがあります。
- お使いの“ウォークマン”の機種によっては、本機の操作に対する反応が遅れる場合があります。
- 次のケースでは、録音ができません。
  - 最大フォルダ数：1000を超えた場合（ROOTフォルダ／プリインストールされているフォルダを含む）
  - 最大ファイル数：3000を超えた場合
  - 1つのフォルダ内で認識可能な最大ファイル数：250を超えた場合

パソコンから“ウォークマン”にドラッグアンドドロップで転送したMP3形式の曲や本機から録音した曲が対象になります。これらファイル数、フォルダ数の上限は、“ウォークマン”の階層構造の状態によって異なります。そのため、不要なフォルダやファイルは“ウォークマン”に保存しないでください。

“ウォークマン”の充電について

本機は、本機の電源が入／切どちらの状態でも“ウォークマン”をWM-PORTコネクター 18 に接続すると、自動的に充電を開始します。
本機の電源がオフのとき、“ウォークマン”充電中は表示窓に「CHARGING」が表示されます。

“ウォークマン”の充電に関するご注意

- 本機がスタンバイモードのとき、表示切換ボタン 29 を押して表示モードを切り換えると、本機は充電を終了します。再度充電する場合は、本機から“ウォークマン”をいったん取りはずし、表示窓に時計が表示されていないときに再び接続してください。
- 本機で“ウォークマン“を充電中、”ウォークマン“本体の画面表示が消える場合があります。画面表示が消えても”ウォークマン“への充電は継続しています。
- オートスタンバイ機能を「オン」に設定している場合、無操作や無音の状態が30分経過すると、“ウォークマン”の充電を続けながら本機はスタンバイモードに移行します。

CDを“ウォークマン”に録音する

CD-DAディスクまたはMP3ディスクの曲を、“ウォークマン”へ録音することができます。
本体のボタンを使って、ディスクの全曲をワンタッチで録音したり、録音モードによって手動で録音することができます。高速で録音するため録音中は音声を再生できません。

録音に対応している“ウォークマン”については、「“ウォークマン”の再生・録音・削除対応機種について」(29ページ)をご覧ください。

ご注意

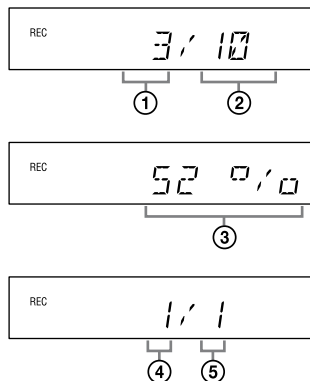
- 本機から“ウォークマン”へ録音する前に、“ウォークマン”のHOLDを解除してください。HOLDの解除のしかたについては、“ウォークマン”に付属されている取扱説明書をご覧ください。
- 「NO SUPPORT」と表示されたときは、お使いの“ウォークマン”は本機での録音に対応していません。対応機種については、29ページをご覧ください。
- CD-DAディスクから録音した場合、タイトルは付きません。ファイル名に通し番号が付きます。詳しくは「フォルダ名とファイル名について」(39ページ)をご覧ください。
- 本機では、“ウォークマン”内の曲のタイトルなどの変更はできません。
- 録音中は、高速録音モードとなり音は再生されません。

ちょっと一言

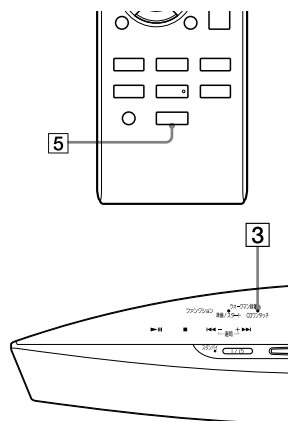
- 録音した曲の保存先については、「録音した曲の保存先について」(38ページ)をご覧ください。
- CD-DAディスクが音源のときは、録音した曲はMP3形式(ビットレートは128kbps)に変換されます。MP3ディスクが音源のときは、録音後のフォーマットもMP3形式となります(ビットレートも音源と同じ)。
- 録音に必要な“ウォークマン”の空き容量は、CD-DAディスクから録音する場合、1分あたり約1MBが目安となります。MP3ディスクから録音する場合には、より多くの空き容量が必要となることがあります。空き容量は、“ウォークマン”で確認することができます。詳しくは、“ウォークマン”の取扱説明書をご覧ください。

次のページにつづく

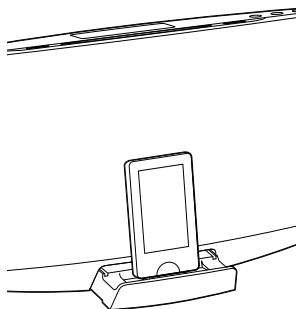
録音中の表示について

本機から“ウォークマン”へ録音中、録音モードやディスクの種類によって以下の表示が表示窓に表示されます。

REC ALLモード	
CD-DAディスクの場合	
①	録音中のトラック番号
②	録音する総トラック数
③	現在録音しているトラックの録音進捗
MP3ディスクの場合	
①	録音中のフォルダ番号
②	録音する総フォルダ数
③	現在録音しているフォルダの録音進捗
REC1モード（CD-DA/MP3ディスク共通）	
④	録音中のトラック番号
⑤	録音する総トラック数
③	現在録音しているトラックの録音進捗
PGMモード（CD-DA/MP3ディスク共通）	
①	録音中のステップ番号
②	録音する総ステップ数
③	現在録音しているステップの録音進捗

ディスクの全曲をワンタッチで録音する

CD-DAディスク、MP3ディスク内に保存されている曲すべてをワンタッチで“ウォークマン”に録音できます。ウォークマン録音 CDワンタッチボタン[3]を押すと、本機はCDファンクションに切り換わり、自動で録音を開始します。

1 “ウォークマン“のHOLDを解除する。

- “ウォークマン”のHOLDの解除については、“ウォークマン”の取扱説明書をご覧ください。

2 **“ウォークマン”をWM-PORTコネクター 18 に接続する。**

3 **ディスクを本機にセットする。**

4 **本体のウォークマン録音 CDワンタッチボタン 3 を押す。**

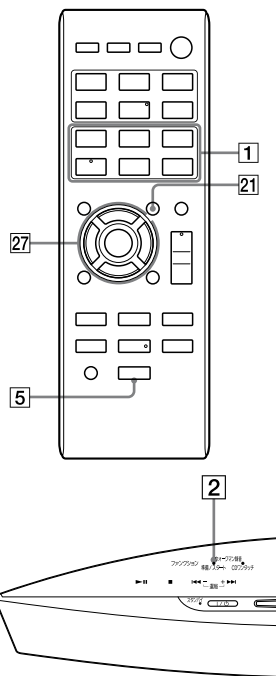
ファンクションが「CD」に切り換わり、表示窓に「REC ALL」が点滅します。
しばらくすると「REC >>> WM」が表示され、録音が始まります。

- 録音が完了すると、“ウォークマン”へのアクセスおよびディスクの再生が自動的に停止します。

録音を途中で止めるには

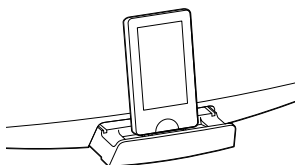
■ボタン 5 を押します。

録音モードに合わせて手動で録音する

本機の録音モードには、ディスクの全曲をまとめて“ウォークマン”へ録音する「REC ALLモード」、再生中の曲を“ウォークマン”へ録音する「REC1モード」、お好みの曲を録音する「REC PGMモード」の3種類があります。

ディスクの全曲を録音する（REC ALLモード）

1 “ウォークマン“のHOLDを解除する。

- “ウォークマン”のHOLDの解除については、“ウォークマン”の取扱説明書をご覧ください。

2 “ウォークマン”を本体のWM-PORTコネクター ⑱に接続する。

3 ディスクを本機にセットする。

- 本機がCDファンクションに設定されている状態でディスクを挿入した場合は、自動的に再生が始まります。■ボタン5を押して再生を停止し、手順5へ進みます。

4 CDファンクションボタン1を押す。

ファンクションランプが黄色に点灯します。

- 本体では、ファンクションボタン1を繰り返し押して表示窓に「CD」を表示させます。

5 本体のウォークマン録音 準備／スタートボタン2を押す。

表示窓に「REC ALL」が表示され、本機は録音準備状態に切り換わります。しばらくすると、「PUSH START」が表示されます。

6 ウォークマン録音 準備/スタートボタン2を押す。

表示窓に「REC >>> WM」が表示され、1曲目から録音が始まります。

- 録音中に表示窓に表示される情報については、「録音中の表示について」（32ページ）をご覧ください。
- 録音が完了すると、“ウォークマン”へのアクセスおよびディスクの再生が自動的に停止します。

録音を途中で止めるには

■ボタン5を押します。

再生中の曲だけを録音する（REC1モード）

1 “ウォークマン“のHOLDを解除する。

- “ウォークマン”のHOLDの解除については、“ウォークマン”の取扱説明書をご覧ください。

2 “ウォークマン”を本体のWM-PORTコネクター ⑱に接続する。

3 ディスクを本機にセットする。

- 本機がCDファンクションに設定されている状態でディスクを挿入した場合は、自動的に再生が始まります。■ボタン5を押して再生を停止し、手順5へ進みます。

4 CDファンクションボタン1を押す。

ファンクションランプが黄色に点灯します。

- 本体では、ファンクションボタン1を繰り返し押して表示窓に「CD」を表示させます。

5 録音したい曲を再生する。

6 本体のウォークマン録音 準備／スタートボタン[2]を押す。

表示窓に「REC1」が表示され、本機は録音準備状態に切り換わります。しばらくすると、「PUSH START」が表示されます。

7 ウォークマン録音 準備/スタートボタン[2]を押す。

表示窓に「REC >>>WM」が表示され、再生中の曲の先頭に戻って録音が始まります。

- 録音中に表示窓に表示される情報については、「録音中の表示について」(32ページ)をご覧ください。
- 録音が完了すると、"ウォークマン"へのアクセスが自動的に停止します。

録音を途中で止めるには

■ボタン[5]を押します。

お好みの曲だけを録音する（REC PGMモード）

プログラム登録した曲のみを"ウォークマン"に録音することができます。

1 "ウォークマン"のHOLDを解除する。

- "ウォークマン"のHOLDの解除については、"ウォークマン"の取扱説明書をご覧ください。

2 "ウォークマン"を本体のWM-PORTコネクター[18]に接続する。

3 ディスクを本機にセットする。

- 本機がCDファンクションに設定されている状態でディスクを挿入した場合は、自動的に再生が始まります。■ボタン[5]を押して再生を停止し、手順5へ進みます。

4 CDファンクションボタン[1]を押す。

ファンクションランプが黄色に点灯します。

- 本体では、ファンクションボタン[1]を繰り返し押して表示窓に「CD」を表示させます。

5 お好みの曲をプログラム登録する。

「好きな順に曲を聞く」(27ページ)の手順2 〜 6を行ってください。

6 本体のウォークマン録音 準備／スタートボタン[2]を押す。

表示窓に「REC PGM」が表示され、本機は録音準備状態に切り換わります。しばらくすると、「PUSH START」が表示されます。

7 ウォークマン録音 準備/スタートボタン[2]を押す。

表示窓に「REC >>> WM」が表示され、プログラムした曲の録音が始まります。

- 録音中に表示窓に表示される情報については、「録音中の表示について」(32ページ)をご覧ください。
- 録音が完了すると、"ウォークマン"へのアクセスが自動的に停止します。

録音を途中で止めるには

■ボタン[5]を押します。

MP3ディスクの特定のフォルダを録音対象にするには

「REC ALL」モードで録音します。

① 「ディスクの全曲を録音する(REL ALLモード)」(34ページ)の手順1から4の操作を行う。

② 再生モードボタン[21]を繰り返し押して、フォルダモード(FLDR点灯)を選ぶ。

③ [フォルダ]+/–ボタン[27]を繰り返し押して、フォルダを選ぶ。

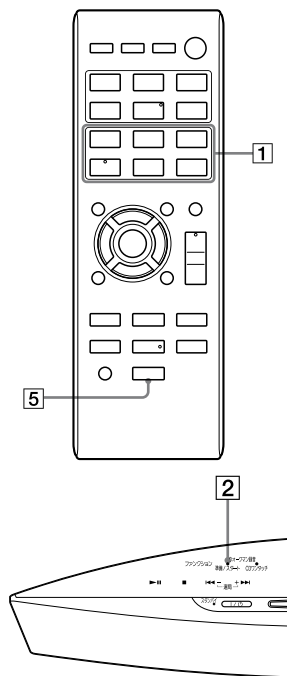
次のページにつづく

④「ディスクの全曲を録音する（REL ALL モード）」（34ページ）の手順5、6の操作を行う。

こんな表示が出たときは

- 「ERROR」が表示されたときは、“ウォークマン“を本機から抜き、再び接続し直してください。
- 「NO DEVICE」が表示されたときは、“ウォークマン”が接続されていません。“ウォークマン”を本体のWM-PORTコネクター 18 に接続してください。
- 「DEVICE FULL」が表示されたときは、“ウォークマン”の空き容量がありません。
- 「FOLDER FULL」が表示されたときは、録音可能なフォルダ数が上限に達しています。
- 「TRACK FULL」が表示されたときは、録音可能なファイル数が上限に達しています。
- 「REC ERROR」が表示されたときは、録音を開始していないか、録音が正常に行われていません。「故障かな？と思ったら」の「“ウォークマン”」の項目(64 ～ 67ページ)をご覧ください。
- 「FATAL ERROR」は、録音中に“ウォークマン”を取りはずしたときに表示されます。録音中に“ウォークマン”を取りはずさないでください。“ウォークマン”のデータが破損したり、“ウォークマン”本体が故障するおそれがあります。

FM/AMラジオからの放送を“ウォークマン”に録音する

ラジオ局からの放送を“ウォークマン”に録音します。録音中もラジオからの放送を聞くことができます。

1 “ウォークマン“のHOLDを解除する。

- “ウォークマン”のHOLDの解除については、“ウォークマン”の取扱説明書をご覧ください。

2 **FMファンクションボタン[1]、またはAMファンクションボタン[1]を押して、ラジオ局を選ぶ。**

ファンクションランプが点灯します(FM:ピンク色/ AM:水色)。

- 本体では、ファンクションボタン[1]を繰り返し押して、表示窓に「FM」または「AM」を表示させます。

3 **録音したいラジオ局を受信する。**

- ラジオ局の受信のしかたについて詳しくは、「ラジオを聞く」(51ページ)をご覧ください。

4 **本体のウォークマン録音 準備/スタートボタン[2]を押す。**

表示窓に「REC」が表示され、本機は録音準備状態に切り換わります。しばらくすると、「PUSH START」が表示されます。

5 **ウォークマン録音 準備/スタートボタン[2]を押す。**

「REC >>> WM」が表示され、録音が始まります。

録音を止めるには

■ボタン[5]を押します。

新しいトラックを作るには

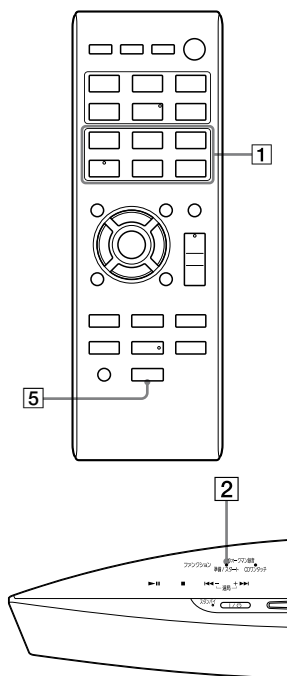
録音中にウォークマン録音 準備/スタートボタン[2]を押して、新しいトラックを作成します。
また、60分ごとに自動的にトラックマークがつき、新しい曲として録音されます。

ご注意

"ウォークマン"に保存されている曲やファイル数が多い場合、本機のウォークマン録音 準備/スタートボタン[2]を押してから録音が開始されるまで、時間がかかる場合があります。
録音したい放送の開始時間より充分前に、本機を録音準備状態(手順4:表示窓に「PUSH START」が表示されている状態)にしてください。

外部入力機器からの曲を“ウォークマン”に録音する

外部入力端子に接続した機器からの曲を“ウォークマン”に録音します。録音中も外部入力機器からの音声を聞くことができます。

外部機器の接続方法については「接続する」（19ページ）をご覧ください。

1 “ウォークマン“のHOLDを解除する。

- “ウォークマン”のHOLDの解除については、“ウォークマン”の取扱説明書をご覧ください。

2 外部入力ボタン1を押す。

ファンクションランプが橙色に点灯します。

- 本体では、ファンクションボタン1を繰り返し押して、表示窓に「AUDIO IN」を表示させせます。

3 本体のウォークマン録音 準備／スタートボタン2を押す。

表示窓に「REC」が表示され、本機は録音準備状態に切り換わります。しばらくすると、「PUSH START」が表示されます。

4 ウォークマン録音 準備/スタートボタン2を押す。

「REC >>> WM」が表示され、録音が始まります。

5 外部機器の再生を始める。

録音を止めるには

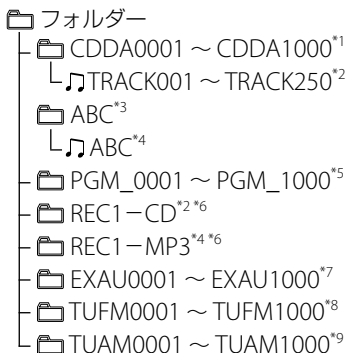
■ボタン5を押します。

新しいトラックを作るには

録音中にウォークマン録音 準備/スタートボタン2を押して、新しいトラックを作成します。
また、60分ごとに自動的にトラックマークがつき、新しい曲として録音されます。

録音した曲の保存先について

本機で録音した曲は、"ウォークマン"の「ミュージック」→「フォルダー」の中に保存されます。音源の種類や録音モードによって以下のように保存されます。

```
フォルダー
├ CDDA0001 ～ CDDA1000*1
│ └ TRACK001 ～ TRACK250*2
│  ABC*3
│ └ ABC*4
├ PGM_0001 ～ PGM_1000*5
├ REC1－CD*2 *6
├ REC1－MP3*4 *6
├ EXAU0001 ～ EXAU1000*7
├ TUFM0001 ～ TUFM1000*8
└ TUAM0001 ～ TUAM1000*9
```

*1 CD-DAディスクから録音したアルバム
*2 CD-DAディスクから録音した曲
*3 MP3ディスクから録音したフォルダ（音源と同じフォルダ名を表示）
*4 MP3ディスクから録音したファイル（音源と同じファイル名を表示）
*5 REC PGMモードで録音した曲をプログラムごとにフォルダを生成
*6 REC1モードで録音した曲を保存
*7 外部入力から録音した曲を保存
*8 FMラジオから録音した曲を保存
*9 AMラジオから録音した曲を保存

ちょっと一言

CD-DAディスクから録音した場合など、アルバム情報やアーティスト情報がない録音データは、"ウォークマン"の「アルバム」や「アーティスト」などでは「不明」に分類されます。

フォルダ名とファイル名について

"ウォークマン"へ録音すると、"ウォークマン"内の「フォルダー」には以下の命名ルールに従ってフォルダとMP3ファイルが生成されます。保存先については、「録音した曲の保存先について」(38ページ)をご覧ください。

REC ALLモード時

音源	フォルダ名	ファイル名
MP3	音源と同じ[1)	
CD-DA	"CDDA0001"[2)	"TRACK001"[3)

REC1モード時

音源	フォルダ名	ファイル名
MP3	"REC1－MP3"[4)	音源と同じ[1)
CD-DA	"REC1－CD"[4)	"TRACK001"[3)

REC PGMモード時

音源	フォルダ名	ファイル名
MP3	"PGM_0001"[2)	音源と同じ[1)
CD-DA		"TRACK001"[3)

FM ／ AMラジオ、外部入力からの録音

録音ソース	フォルダ名	ファイル名
FM	TUFM0001[2)	TRACK001[3)
AM	TUAM0001[2)	
外部入力	EXAU0001[2)	

1) ファイル名、フォルダ名は最大64文字まで表示されます。
2) フォルダ番号が連番で割り振られます（最大1000（「ROOT」フォルダおよび「MUSIC」フォルダ含む））。
3) ファイル番号が連番で割り振られます。

"ウォークマン"を楽しむ

次のページにつづく

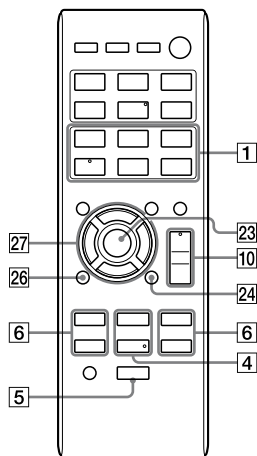
4) 最初にREC1モードで録音を実行したときにCD-DAディスクは「REC1-CD」、MP3ディスクは「REC1-MP3」フォルダが生成されます。以後、REC1モードで録音を行うと、ディスクの種類に合わせて常に「REC1-CD」、「REC1-MP3」フォルダ内に録音した曲が保存されます。

ご注意

- "ウォークマン"がデータベースの更新中のときは、更新が終わるまで本機に接続しないでください。
- フォルダの認識数は1000までROOT、MUSIC、空フォルダなどデバイス内のすべてのフォルダを含む
- REC ALLモードでの録音時は、シャッフル再生またはリピート再生モードは自動的に解除され、ノーマル再生モードとなります。
- CDファンクションからの録音中は、高速録音モードとなり、音は聞けません。
- CD-TEXT情報を持つCD-DAトラックが音源の場合、録音後のMP3ファイルにCD-TEXT情報は含まれません。
- CD-DAディスクからの録音を途中で止めると、曲の途中まで録音された不完全なファイルが生成されます。MP3ディスクからの録音を途中で止めた場合は、ファイルは生成されません。
- 次のような条件下では、録音は自動的に停止します。
  - 録音中に"ウォークマン"の空き容量がなくなった。
  - "ウォークマン"に録音できるフォルダ数または曲数が本機の仕様の上限に達した。
- 録音時に"ウォークマン"に同名のフォルダやファイルが存在するときは、生成時のフォルダまたはファイルの名前の最後に、連番が追加されます。このため、もともとあったフォルダやファイルが上書きされることはありません。

"ウォークマン"の曲を聞く

別売りの"ウォークマン"を本機と接続することで、"ウォークマン"の音楽や音声データを聞くことができます。
また、"ウォークマン"を本機に接続した状態で、"ウォークマン"側の再生モードを設定すると、"ウォークマン"で設定した再生モードを本機でも再生することができます。

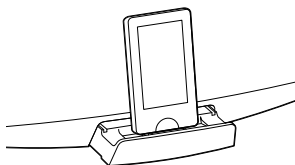
再生に対応している"ウォークマン"については、「"ウォークマン"の再生・録音・削除対応機種について」（29ページ）をご覧ください。

1 ウォークマンファンクションボタン[1]を押す。

ファンクションランプが白色に点灯します。

- 本体では、ファンクションボタ

ン1を繰り返し押して表示窓に「WALKMAN」を表示させます。
- "ウォークマン"を接続する前に、"ウォークマン"のホームメニューで「ミュージック」や「ポッドキャスト」など、ライブラリを選択して曲を再生し、停止状態にしてください。

2 "ウォークマン"を本体のWM-PORTコネクター 18に接続する。

- "ウォークマン"で再生モードを設定することで、設定した再生モードで再生できます。再生モードの設定は、"ウォークマン"が本機に接続された状態で行ってください。

3 ►ボタン4を押して、再生を開始する。

- 本体では、►IIボタン4を押します。

録音した曲を聞く

一度"ウォークマン"を本機から取りはずし、録音した曲を"ウォークマン"で再生してください。再生を停止してから"ウォークマン"を本機に接続し、本機を操作して再生してください。録音した曲を"ウォークマン"で再生するには、「録音した曲の保存先について」(38ページ)をご覧になり、録音した曲を選んでください。

その他の操作

本体またはリモコンのボタンを使って以下の操作ができます。

こんなときは	操作
一時停止する	IIボタン(本体では►IIボタン) 4、または■ボタン5を押す。
フォルダをスキップする1)	📁 +/–ボタン27を押す。
曲を選ぶ、オーディオブックやポッドキャストデータのチャプターを選ぶ	I◄◄/►►Iボタン6を押す。
曲中の聞きたい部分を探す、オーディオブックやポッドキャストデータの聞きたい部分を探す	再生中に◄◄/►►ボタン6 (本体ではI◄◄/►►Iボタン6)を押し続け、聞きたいところで指を離す。
"ウォークマン"の表示窓で、メニュー項目や再生する曲を選ぶ2)	↑/↓/←/→ボタン27を押す。
"ウォークマン"の表示窓で、リスト画面の次の画面に進んだり、曲の再生を始める2)	⊕ボタン23を押す。

"ウォークマン"を楽しむ

次のページにつづく

こんなときは	操作
“ウォークマン”の表示窓で、リスト画面の前の画面に戻る[2]	戻るボタン㉖を押す。
“ウォークマン”の表示窓にオプションメニューを表示する[2]	オプションボタン㉔を押す。

[1] フォルダのスキップができないときは、“ウォークマン”の「ミュージック」以下のサーチメニューの検索方法を「アーティスト」または「アルバム」にしてください。お使いの“ウォークマン”によっては機能しません。

[2] NW-S764/S765/S766、NW-S764K/S765K、NW-S764BT、NW-E062/E063、NW-E062K/E063Kのみ（2012年5月現在）

ご注意

- “ウォークマン”を抜き挿しするときは、WM-PORTコネクター ⑱の角度に沿ってまっすぐ抜き挿ししてください。また、WM-PORTコネクター ⑱が破損するおそれがあるため、“ウォークマン”をひねったり、反らせないようご注意ください。
- “ウォークマン”を接続したままの状態で、本機を移動しないでください。故障の原因となることがあります。
- “ウォークマン”を抜き挿しするときは、本機をしっかり手で押さえ、“ウォークマン”の操作ボタンを誤って押さないようご注意ください。
- 本機のWM-PORTコネクター ⑱は、“ウォークマン”専用です。他社製のポータブルオーディオプレーヤーを接続しないでください。
- 音が出ないなどの問題が発生した場合は、本機から“ウォークマン”を取りはずし、接続し直してください。
- “ウォークマン”を本機で使用しているときは、“ウォークマン”のヘッドホン端子には音声は出力されません。
- FMチューナーやワンセグチューナー搭載の“ウォークマン”を本機で使用すると、放送が受信できなかったり、感度が低下することがあります。
- 音量は、本体またはリモコンの音量 ＋/－ボタン⑩を使って調節してください。“ウォークマン”側で音量を調節しても、音量は変わりません。
- “ウォークマン”を取りはずすときは、再生を停止してから取りはずしてください。
- 本機は“ウォークマン”の動作のすべてを保証するものではありません。

“ウォークマン”の曲を削除する

本機での削除に対応する機種をお使いの場合には、「録音した曲を削除するには」（43ページ）の手順に従って、曲やフォルダを削除することができます。ただし、“ウォークマン”内のすべての曲を削除できるものではありません。詳しくは、「削除可能なフォルダ/曲について」をご覧ください。
削除に対応している“ウォークマン”については、「“ウォークマン”の再生・録音・削除対応機種について」(29ページ)をご覧ください。

お使いの“ウォークマン”が、本機での曲やフォルダの削除に対応していない場合は、表示窓に「NO SUPPORT」が表示されます。
「NO SUPPORT」のメッセージは、「録音した曲を削除するには」（43ページ）の手順に従って、曲削除ボタン24を押したあと、「CHECKING」のメッセージの後に表示されます。
「NO SUPPORT」が表示された場合は、パソコンで“ウォークマン”の曲やフォルダを削除することをおすすめします。パソコンでの削除について詳しくは、“ウォークマン”の取扱説明書をご覧ください。

削除可能なフォルダ/曲について

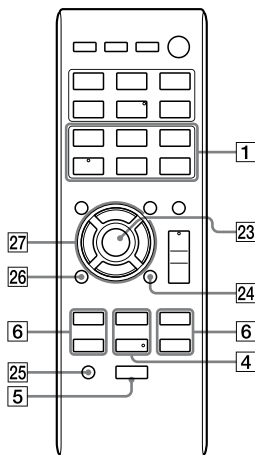
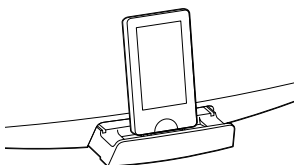
本機で削除できるのは、本機で録音した曲とフォルダ、パソコンから“ウォークマン”にドラッグアンドドロップして転送したMP3形式の曲やフォルダです。

- 以下の曲やフォルダは本機で削除できません。
  - X-アプリ（SonicStage）から“ウォークマン”に転送した曲やフォルダ
  - パソコンから“ウォークマン”にドラッグアンドドロップして転送したMP3形式以外の曲やフォルダ
  - 他のオーディオ機器から“ウォークマン”に直接録音した曲やフォルダ
- 本機が認識できるフォルダとファイル数は、ファイル数3000、フォルダ数1000までです。

“ウォークマン”に3000以上のファイル、1000以上のフォルダが保存されている場合、本機が認識できる数以上のファイル、フォルダは表示窓に表示されません。“ウォークマン”のファイルやフォルダを削除するときに、表示されないファイル、フォルダがある場合は、ファイル、フォルダ数が上限数を超えていないか確認してください。

本機で録音した曲の保存先やファイル名については、「録音した曲の保存先について」（38ページ）と「フォルダ名とファイル名について」（39ページ）をご覧ください。

録音した曲を削除するには

録音した曲やフォルダを削除します。

1 **“ウォークマン”を本体のWM-PORTコネクター 18 に接続する。**

2 **ウォークマンファンクションボタン 1 を押す。**

ファンクションランプが白色に点灯します。

- 本体では、ファンクションボタン 1 を繰り返し押して表示窓に「WALKMAN」を表示させます。

3 **シフトボタン 25 を押しながら、曲削除ボタン 24 を押す。**

次のメッセージが順に表示されます。

“ウォークマン”内のデータ読み込み中

「フォルダ」または「トラック(曲)」を選択するメッセージ。選択するまで「SELECT」→「FLDR/TRK」が繰り返し表示されます。

「NO TRACK」が表示されたときは

“ウォークマン”に削除可能な曲がありません。詳しくは、「削除可能なフォルダ/曲について」(42ページ)をご覧ください。

4 **⏮/⏭ボタン 6 または 🗀 +/–ボタン 27 を繰り返し押して、削除したい曲またはフォルダを選ぶ。**

表示窓に曲名またはフォルダ名が表示され、続けて「ERASE?」のメッセージが表示されます。

- 削除したい曲またはフォルダを変更したいときは、選び直してください。
- 「ERASE?」のメッセージは、手順5へ進むまで10秒間隔で表示されます。

5 ►ボタン[4]を押して、削除対象の曲またはフォルダの選択が正しいか音を聞いて確認する。

選択した曲（フォルダを選択した場合は一曲目）が再生されます。

- 選択が間違えているときは、曲またはフォルダを選び直してください。
- 曲の再生中、次の操作ができます。
  - ⏮/⏭ボタン[6]：曲の選択
  - ◀◀/▶▶ボタン[6]：早送り/早戻し
  - ▶/❚❚ボタン[4]（本体では▶❚❚ボタン[4]）：再生/一時停止
  - ■ボタン[5]：再生を停止して手順4に戻る

6 ⊕ ボタン[23]を押す。

「ERASE??」の確認メッセージが表示されます。

- 削除対象を変更したいときは、戻るボタン[26]を押して手順4からやり直してください。
- 削除を中止したいときは、■ボタン[5]を押してください。

7 ⊕ ボタン[23]を押す。

表示窓に「ERASING」が表示され、選択した曲またはフォルダの削除を開始します。削除が完了すると「COMPLETE」が表示されます

8 引き続き曲やフォルダを削除したいときは、手順4 ～ 7を繰り返す。

削除を終了するには

■ボタン[5]を押して削除モードを解除します。削除対象の曲を再生しているときは、■ボタン[5]を2回押して削除モードを解除してください。

こんな表示が出たときは

- 「ERASE ERROR」が表示されたときは、“ウォークマン”の曲やフォルダ（アルバム）の削除に失敗しています。
- 「FATAL ERROR」は、削除中に“ウォークマン”を取りはずしたときに表示されます。削除中に“ウォークマン”を取りはずさないでください。“ウォークマン”のデータが破損したり、“ウォークマン”本体が故障するおそれがあります。

ご注意

シフトボタン[25]を押しながら、曲削除ボタン[24]を押すと、“ウォークマン”の全データの読み込みが行われます。
“ウォークマン”に多数のフォルダやオーディオファイルがあると、「CHECKING」の表示が消えるまで時間がかかる場合があります。

ちょっと一言

- 手順3、4、6の操作中に■ボタン[5]を押すと、操作を中断して削除を途中で止めることができます。
- 削除対象として曲またはフォルダを選択した後も、削除実行前であれば、戻るボタン[26]を押すことで、いつでも削除対象の未選択状態（「SELECT」→「FLDR/TRK」のみの表示状態）に戻すことができます。

Bluetooth接続で聞く

Bluetooth接続を準備する

（CMT-V70Bのみ）

本機は、Bluetooth搭載“ウォークマン”やBluetooth搭載機器で再生する音楽を、Bluetooth接続によりワイヤレスで楽しめます。
Bluetooth接続で音楽を聞くために、まずはじめにBluetooth搭載機器を登録するペアリングを行います。

ペアリングとは

Bluetooth機器では、あらかじめ、接続しようとする機器を登録しておく必要があります。この登録のことをペアリングといいます。
一度ペアリングすれば、再びペアリングする必要はありませんが、以下の場合は再度ペアリングが必要です。

- 修理を行ったなど、ペアリング情報が消去されてしまったとき。
- 10台以上の機器をペアリングしようとしたとき。
  本機は9台までの機器をペアリングすることができます。9台分をペアリングしたあと新たな機器をペアリングすると、9台のなかで最後に接続した日時が最も古い機器のペアリング情報が、新たな機器の情報で上書きされます。
- 接続相手の機器から、本機との接続履歴が削除されたとき。
- 本機を初期化したり、本機で接続履歴を削除した場合は、すべてのペアリング情報が消去されます。

Bluetoothのランプ表示について

ファンクションランプにBluetoothの状態を次のようにランプでお知らせします。

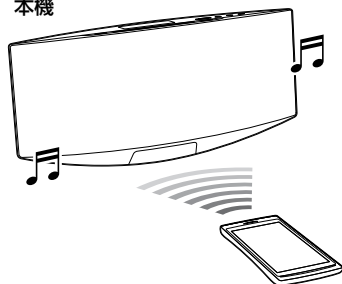
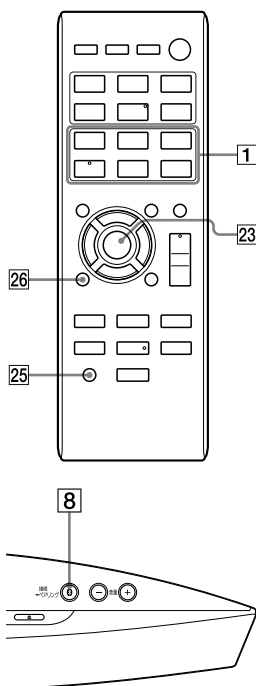
本機の状態	ランプの色	ランプの状態
Bluetooth待ち受け中（電源オン時）	青色	ゆっくり点滅
Bluetoothペアリング中	青色	速く点滅
本機から接続中	青色	点滅
Bluetooth接続完了後	青色	点灯

本機は、A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）、AVRCP 1.3（Audio Video Remote Control Profile）に対応しています。詳しくは、「Bluetooth無線技術について」（60ページ）をご覧ください。

ご注意

- 接続する機器の使いかたについて詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 接続するBluetooth 搭載機器が、A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）に対応している必要があります。

ペアリングする

接続例

Bluetooth“ウォークマン”などのBluetooth搭載機器

1 本機とBluetooth搭載機器を1m以内に置く。

2 BLUETOOTHファンクションボタン1を押す。

ファンクションランプが青色にゆっくり点滅します。

- 本体では、ファンクションボタン1を繰り返し押して表示窓に「BT AUDIO」を表示させます。
- 自動接続により過去に接続したBluetooth機器と接続してしまった場合は、(Bluetooth)ボタン8を押して接続を解除し、表示窓に「BT AUDIO」を表示させます。

3 本体の (Bluetooth)ボタン8を2秒以上押す。

ファンクションランプ(青色)が速く点滅し、表示窓に「PAIRING」が点滅します。
本機はペアリングモードになります。

4 Bluetooth搭載機器でペアリング操作を行い、本機を検索する。

検出が終了すると、Bluetooth搭載機器の画面に検出した機器の一覧が表示されます。

- 本機は、「CMT-V70(S)」または「CMT-V70(N)」と表示されます。
  画面に「CMT-V70(S)」または「CMT-V70(N)」が表示されない場合は、もう一度手順1から操作を行ってください。
- Bluetooth搭載機器でオーディオプロファイル(A2DP、AVRCP)を選択してください。
- Bluetooth 搭載機器が、AVRCP(Audio Video Remote Control Profile))に対応していない場合は、本機では再生や停止などの操作はできません。

次のページにつづく

- Bluetooth 搭載機器の操作について詳しくは、お使いのBluetooth 搭載機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

5 Bluetooth搭載機器の画面に表示されている「CMT-V70(S)」または「CMT-V70(N)」を選択する。

- お買い上げいただいたCMT-V70Bのカラーバリエーションによって表示される機器名が異なります。ダークシルバーはCMT-V70(S)、ゴールドはCMT-V70(N)と表示されます。
- Bluetooth搭載機器の画面でパスコードの入力を要求されたら、「0000」を入力してください。

6 Bluetooth搭載機器からBluetooth接続操作を行う。

ペアリングが完了し正しく接続できると、表示窓の表示が「PAIRING」から「BT AUDIO」に切り換わり、ファンクションランプ（青色）がゆっくり点滅します。

- お使いの機器によっては、ペアリングが完了すると自動的にBluetooth接続を開始する場合があります。

ご注意

- パスコードは、パスキー、PINコード、PINナンバー、パスワードなどと呼ばれる場合があります。
- 本機のペアリングモードは約5分で解除されます。ペアリングが完了しないときは、もう一度手順1から行ってください。
- Bluetooth接続をしている場合、本機は他のBluetooth搭載機器とペアリングしたり、Bluetooth接続することはできません。
- 複数のBluetooth機器とペアリングするには、ペアリングしたい機器ごとに手順1～6を繰り返してください。

ペアリングの情報を削除する

1 BLUETOOTHファンクションボタン[1]を押す。

- 本体では、ファンクションボタン[1]を繰り返し押して表示窓に「BT AUDIO」を表示させます。
- Bluetooth接続をしている場合は、本機の表示窓に、Bluetooth搭載機器で設定されている機器名が表示されます。(Bluetooth）ボタン[8]を押して接続を解除して、表示窓に「BT AUDIO」を表示させます。

2 シフトボタン[25]を押しながら、クリアボタン[26]を押す。

表示窓に「DELETE」が点滅します。

3 ⊕ボタン[23]を押す。

表示窓に「COMPLETE」が表示され、すべてのペアリング情報が削除されます。

ご注意

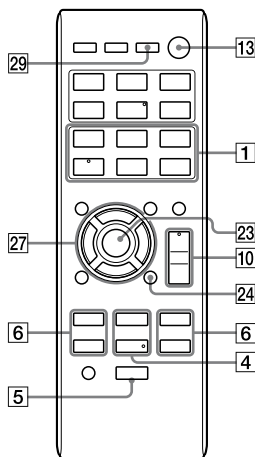
- ペアリング情報を削除した場合、再びペアリングを行わないとBluetooth接続はできません。Bluetooth搭載機器と再びBluetooth接続したい場合は、Bluetooth搭載機器側でパスコードの入力が必要となる場合があります。
- ペアリング情報を削除すると、Bluetoothスタンバイモードの設定はオフになります。

Bluetooth接続で音楽を聞く

本機とペアリングしたBluetooth搭載機器を操作して、Bluetooth接続で音楽を聞きます。
Bluetooth搭載機器を使って、本機の音量を調節したり、再生／停止などを操作できます。操作方法について詳

しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

操作をはじめる前に、以下の点をご確認ください。

- 相手側のBluetooth搭載機器のBluetooth機能が有効になっている。
- 本機とBluetooth搭載機器のペアリングが完了している。

1 BLUETOOTHファンクションボタン[1]を押す。

ファンクションランプが青色にゆっくり点滅します。

- 本体では、ファンクションボタン[1]を繰り返し押して表示窓に「BT AUDIO」を表示させます。

2 Bluetooth搭載機器から本機へ、Bluetooth接続を開始する。

正しく接続できると、表示窓に「LINKED」が表示され、続けてBluetooth搭載機器で設定されている機器名が表示されます。

- 過去に接続したBluetooth機器がある場合は、Bluetooth搭載機器の操作をしなくても自動的に接続される場合があります。
- Bluetooth搭載機器の操作方法について詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

3 ►ボタン[4]を押して再生を始める。

- 本体では、►IIボタン[4]を押します。
- お使いのBluetooth搭載機器によっては、あらかじめMUSIC Applicationの起動が必要な場合があります。
- お使いのBluetooth搭載機器によっては►ボタン[4]を2回押す必要があります。

4 音量+/−ボタン[10]を押して音量を調節する。

その他の操作

本体またはリモコンのボタンを使って以下の操作ができます。

こんなときは	操作
一時停止する	IIボタン[4]*（本体では► IIボタン[4]*）を押す。
再生を止める	■ボタン[5]を押す。
フォルダを選ぶ	📁 +/−ボタン[27]を押す。
曲を選ぶ	I◄◄/►►Iボタン[6]を押す。
曲中の聞きたい部分を探す	再生中に◄◄/►►ボタン（本体ではI◄◄/►►Iボタン）[6]を押し続け、聞きたいところで指を離す。

* お使いのBluetooth搭載機器によってはIIボタン[4]（本体では►IIボタン[4]）を2回押す必要があります。

Bluetooth接続で聞く

ご注意

本書で説明した操作は、一部のBluetooth搭載機器では対応していない場合があります。また、お使いのBluetooth搭載機器によって実際の動作は異なる場合があります。

Bluetooth搭載機器のアドレスを確認するには

表示窓にBluetooth搭載機器で設定されている機器名が表示されているときに表示切換ボタン29を押すと、Bluetooth搭載機器のアドレスが、2画面に分けて計8秒間表示されます。

Bluetooth接続を切断するには

本体の (Bluetooth)ボタン8を押してください。表示窓に「UNLINKED」が表示されます。
お使いのBluetooth搭載機器によっては、音楽の再生を終了すると自動的にBluetooth接続を切断する場合があります。

Bluetoothスタンバイモードを設定／解除する

Bluetoothスタンバイモードを設定／解除します。
Bluetoothスタンバイモードを設定することで、電源が入っていない状態でもBluetooth接続待ち状態にすることができます。

- 本機にペアリング情報が無い場合は、Bluetoothスタンバイモードを設定することはできません。

1 BLUETOOTHファンクションボタン1を押す。

ファンクションランプが青色に点滅します。

- 本体では、ファンクションボタン1を繰り返し押して、表示窓に「BT AUDIO」を表示させます
- 自動接続により過去に接続したBluetooth機器と接続してしまった場合は、(Bluetooth)ボタン8を押して接続を解除し、表示窓に「BT AUDIO」を表示させます。

2 オプションボタン24を押す。

表示窓に「BT STBY」が表示されます。

- ペアリング情報がない場合は、表示窓に「NOT USED」が点滅します。

3 ⊕ボタン23を押す。

表示窓に「ON」または「OFF」が表示されます。

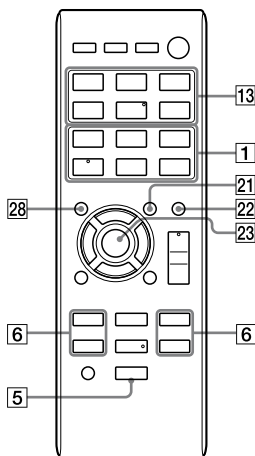
4 ⏮/⏭ボタン6を繰り返し押して、「ON」または「OFF」を選ぶ。

5 I/⏻13ボタンを押して、本機の電源を切る。

- 「ON」に設定した場合、相手側からBluetooth接続操作を行うことで、本機の電源がオンになり、Bluetooth接続で音声を聞くことができます。

ご注意

ペアリング情報を削除すると、Bluetoothスタンバイモードの設定はオフになります。

ラジオを聞く

ラジオ局を受信する

1 **FMファンクションボタン1、またはAMファンクションボタン1を押して、ラジオ局を選ぶ。**

ファンクションランプが点灯します(FM：ピンク色／ AM：水色)

- 本体では、ファンクションボタン1を繰り返し押して、表示窓に「FM」または「AM」を表示させます。

2 **選局モードボタン21を繰り返し押して「AUTO」を表示させる。**

- ボタンを押すたびに「AUTO」→「PRESET」→「MANUAL」の順に選局モードが切り換わります。

3 **+/−ボタン6を押す。**

表示窓の周波数表示の数字が動き始めます。

- 本体では、選局+/−ボタン6を押します。

ラジオ局を受信すると自動的に止まり、「TUNED」(受信中)と「STEREO」(FMステレオ放送のときのみ)が点灯します(オートチューニング)。

STEREO TUNED 76.1

「TUNED」が点灯せずラジオ局を受信できなかったときは、■ボタン5を押して、以下の手順に従って手動で選局することもできます。

手動で選局する場合(マニュアルチューニング)

選局モードボタン21を繰り返し押して、「MANUAL」を表示させ、+/−ボタン6を繰り返し押して、聞きたいラジオ局の周波数に合わせます。

ちょっと一言

FMステレオ放送の受信中に雑音が多いときは、FM モードボタン22を繰り返し押して「MONO」を表示させ、モノラル受信に切り換えてください。雑音を低減できます。

TUNED MONO

「MONO」が4秒間表示されます。

ラジオ局を登録する

お好みのラジオ局を登録しておくことができます。

1 **登録したいラジオ局を受信する。**

2 **放送局登録ボタン[28]を押す。**

プリセット番号

STEREO TUNED MEMORY 1

3 **+/−ボタン[6]を繰り返し押して、プリセット番号を選ぶ。**

- 本体では、選局+/−ボタン[6]を押します。
- プリセット番号1 ～ 6に登録したラジオ局は、リモコンのチューナーメモリー番号（1 ～ 6）ボタン[20]に自動的に登録されます。
- すでに登録済みのプリセット番号を選んだ場合は、新たに受信しているラジオ局の登録に置き換わります。

4 **⊕ボタン[23]を押して、登録を決定する。**

「COMPLETE」が表示されます。

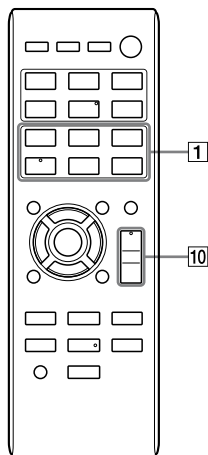
5 **手順1 ～ 4を繰り返して他のラジオ局を登録する。**

- FM放送は20局まで、AM放送は10局まで登録することができます。

登録したラジオ局を聞くには

プリセット番号1 ～ 6に登録したラジオ局は、本機がFMまたはAMファンクションに設定されている状態で、リモコンのチューナーメモリー番号（1 ～ 6）ボタン[20]を押してください。登録したラジオ局に切り換わります。

プリセット番号7以降に登録したラジオ局は、選局モードボタン[21]を繰り返し押して「PRESET」を表示させ、+/−ボタン[6]を押して、聞きたいラジオ局のプリセット番号を選びます。

外部機器を接続して聞く

1 **音量−ボタン[10]を押して、音量レベルを下げる。**

2 **別売りの外部機器を外部入力端子[A]（20ページ）に接続する。**

- 別売りのオーディオ接続コードを使って、外部機器のオーディオ出力端子に接続します。

3 **外部入力ファンクションボタン[1]押す。**

ファンクションランプが橙色に点灯します。

• 本体では、ファンクションボタン1を繰り返し押して表示窓に「AUDIO IN」を表示させます。

4 外部機器の再生を始める。

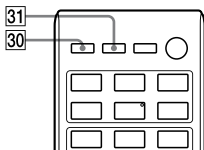
• 再生が始まったら、外部機器側の音量を調節してください。

5 音量+/–ボタン10を押して、音量を調節する。

ご注意

外部機器の音量が小さすぎると、本機のオートスタンバイ機能によって自動的にスタンバイモードに移行します。詳しくは、「オートスタンバイ機能について」（23ページ）をご覧ください。

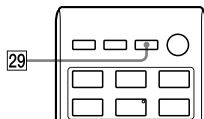
音質を調整する

好みの音に合わせてバスブーストやサウンド効果を設定します。

バスブーストを設定する

バスブースト（低音増強）を設定します。BASS BOOSTボタン30を繰り返して押して「ON」または「OFF」を設定します。

サウンド効果を設定する

SOUND EFFECTボタン31を繰り返し押してお好みのサウンドを選択します。

表示窓の表示を切り換える

こんなときは	操作
表示窓で情報を見る*	電源「入」時に、表示切換ボタン29を繰り返し押す。
電源「切」時に時計を表示する	電源「切」時に、表示切換ボタン29を繰り返し押す。約8秒間時計が表示されます。

* CDやMP3ディスクの再生中は次のような情報を見ることができます。

CD-DAディスクの場合

– 再生している曲の残時間
– 総残時間

MP3ディスクの場合

– 曲名（「♫」）
– アーティスト名（「👤」）
– アルバム名(「📁」)

表示に関するご注意

• 本機で表示できない文字があった場合、アンダースコア(_)に置き換えて表示されます。
• 以下の情報は表示されません。
  – MP3ディスクの総演奏時間および残り時間
  – 曲（MP3ファイル）の残り時間
• 以下の情報は正しく表示されないことがあります。
  – VBR（Variable Bit Rate）の設定でエンコードされたMP3ファイルの再生経過時間

その他の操作と設定

次のページにつづく

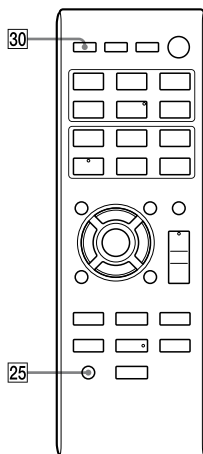
– ISO9660 Level 1/Level 2またはJolietの拡張フォーマットの命名規則に準拠していないフォルダ名、ファイル名

- 以下の情報は表示されます。
  – CD-DAディスクの総演奏時間（PGMモード以外での停止中）
  – 曲（CD-DAトラック）の残り時間
  – CD-DAディスクの残り時間（ノーマル再生モードでの再生中）
  – MP3ファイルのID3タグの情報。ID3のバージョン1とバージョン2のタグが混在して使われている場合は、バージョン2のタグ情報が優先的に表示されます。
  – ID3タグの先頭から最大64文字。表示可能な文字の種類は、大文字（A ～ Z）、数字（0 ～ 9）、記号（˝ $ % ’ ( ) * + , – . / < = > @ [\ ] _ ` { | } ! ? ^ ˜）です。

タイマーを使う

本機のタイマー機能には、スリープタイマー、再生タイマー、録音タイマーの3種類があります。
再生タイマーや録音タイマーが働いているときにスリープタイマーを使うと、スリープタイマーが優先されます。
タイマーの設定は、リモコンのボタンで行います。

スリープタイマーを設定する

指定した時間が経過すると、自動的に本機の電源が切れます。スリープタイマーは、本機の時計を合わせていない状態でも使用できます。

1 シフトボタン㉕を押しながら、スリープボタン㉚を繰り返し押す。

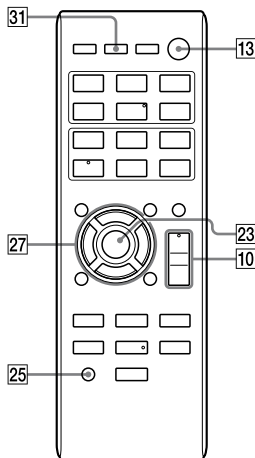
- 30分後に電源が切れるようにするときは、「30MIN」を選びます。
- スリープタイマーを中止するときは、「OFF」を選びます。

再生タイマー／録音タイマーを設定する

再生タイマー

指定した時刻に毎日自動的に音源をスタートさせ、CDやMP3ディスクからの音楽やラジオを聞くことができます。設定の前に、本機の時計を合わせてください。

録音タイマー

指定した時間からFM、AMラジオ放送の録音を開始する録音タイマーを設定します。

1 音源を準備する。

- 音源を準備し、音量+/–ボタン⑩を押して音量を調節します。音源として指定できるのは、再生タイマーはCD、FM、AMファンクションです。録音タイマーはFM、AMファンクションのみです。
- ディスクの好きな曲だけを再生したいときは、プログラム登録をしてください。詳しくは、「好きな順に曲を聞く」(27ページ)をご覧ください。
- ラジオ局を音源にするときは、オートチューニング、マニュアルチューニング、登録済みのプリセットのいずれかの方法で、事前にお好みのラジオ局に周波数を合わせてください(51ページ)。

2 シフトボタン㉕を押しながら、時計/タイマー設定ボタン㉛を押す。

3 再生タイマーまたは録音タイマーを選ぶ。

- 再生タイマー
  ♦/♦ボタン㉗を繰り返し押して「PLAY SET」を選び、⊕ボタン㉓を押す。
- 録音タイマー
  ♦/♦ボタン㉗を繰り返し押して「REC SET」を選び、⊕ボタン㉓を押す。

開始時刻の時間が点滅します。

4 開始時刻を設定する。

- ♦/♦ボタン㉗を繰り返し押して「時」を設定し、⊕ボタン㉓を押します。分表示が点滅したら、同様に「分」を設定します。

「分」の設定が終わると、終了時刻の設定に切り換わります。

5 手順4と同様の手順で終了時刻を設定する。

「TIME NG」が点滅表示されたときは

開始時刻と終了時刻が同時刻になっています。終了時刻を設定し直してください。

6 音源を選ぶ。

- ↑/↓ボタン㉗を繰り返し押して音源を選び、⊕ボタン㉓を押します。音源として指定できるのは、再生タイマーはCD、FM、AMファンクション、録音タイマーはFM、AMファンクションです。

音源の設定が終わると、再生タイマーまたは録音タイマーの設定確認が表示されます。

7 I/⏻ボタン⑬を押して、電源を切る。

- 再生タイマーを設定した場合、音源をFM、AMに指定している場合は、タイマー開始時刻の約15秒前、音源をCDに指定している場合は、タイマー開始時刻の約90秒前に自動的に電源が入ります。
- 録音タイマーを設定した場合は、約90秒前に自動的に電源が入ります。
- 開始時刻に電源が入っていると、再生タイマーまたは録音タイマーは働きません。電源が入り音源の再生が始まるまで、本機の操作はしないでください。

タイマーの設定を確認するには

1 シフトボタン㉕を押しながら、時計/タイマー設定ボタン㉛を押す。

2 ↑/↓ボタン㉗を繰り返し押して、「SELECT」を選び、⊕ボタン㉓を押す。

3 ↑/↓ボタン㉗を繰り返し押して、「PLAY SEL」または「REC SEL」を選び、⊕ボタン㉓を押す。

タイマーの設定が表示されます。

タイマーを中止するには

1 シフトボタン㉕を押しながら、時計/タイマー設定ボタン㉛を押す。

2 ↑/↓ボタン㉗を繰り返し押して、「SELECT」を選び、⊕ボタン㉓を押す。

3 ↑/↓ボタン㉗を繰り返し押して、「OFF」を選び、⊕ボタン㉓を押す。

設定を変更するには

再生タイマー、録音タイマーの設定をやり直してください。

ご注意

- 再生タイマー、録音タイマーの音源に、オートチューニング（AUTO）またはマニュアルチューニング（MANUAL）を利用してラジオ放送局を指定した場合、再生タイマー、録音タイマーを設定した後にラジオ局の周波数やバンド（FM/AM）を変更すると、再生タイマー、録音タイマー起動時の周波数やバンドも変更されます。
- 再生タイマー、録音タイマーの音源に、登録済みの放送局（プリセット番号1 ～ 20）から選択してラジオ放送局を指定した場合、再生タイマー、録音タイマーを設定した後にラジオ局の周波数やバンド（FM/AM）を変更しても、再生タイマー、録音タイマーには反映されません。再生タイマー、録音タイマー設定時の放送局に固定されます。

ちょっと一言

再生タイマーは、手動で中止しないかぎり、タイマーの設定を保持します。

操作音をオン／オフする

タッチパネルを操作したときに鳴る操作音をオン／オフします。操作音の設定は本機の電源が入った状態で設定してください。
お買い上げ時はオンに設定されています。

1 I/⏻ボタン13を押して、本機の電源を入れる。

2 本体の■ボタン5と音量－ボタン7を3秒以上押す。

表示窓に「BEEP OFF」が表示されます。

- 操作音をオンに設定する場合は、手順1、2を操作してください。

ご注意

操作音をオンに設定している場合でも、"ウォークマン" ドックランプが点滅している間は、タッチパネルを操作しても操作音は鳴りません（タッチパネルの操作は有効です）。

使用上のご注意・主な仕様

使用上のご注意

再生できるディスク

- 音楽用CD
- CD-R/CD-RW（CD-DAトラックまたはMP3ファイルの音楽データ）

データのないCD-R/CD-RWディスクを使用しないでください。ディスクにダメージを与えるおそれがあります。

再生できないディスク

- CD-ROM
- 音楽CDの規格に準拠していない形式で記録されたCD-RおよびCD-RWディスク、ISO9660 Level 1/Level 2またはJolietのフォーマットに準拠しないCD-RおよびCD-RWディスク
- マルチセッション方式で記録して、セッションクローズ処理をしていないCD-RおよびCD-RWディスク
- 記録品質の悪いCD-RおよびCD-RWディスク、傷、汚れのあるCD-RおよびCD-RWディスク、互換性のないレコーダーで記録したCD-RおよびCD-RWディスク
- 書き込み用ソフトウェアやレコーダーによる「ファイナライズ処理」が正常に終了していないCD-RおよびCD-RWディスク
- MP3形式（MPEG 1 Audio Layer-3）以外のフォーマットのオーディオファイルが記録されたCD-RおよびCD-RWディスク
- 円形以外の特殊な形状（カード型、ハート型、星型など）をしたディスク
- 紙やシールの貼られたディスク
- 中古ディスクやレンタルディスクで、セロハンテープやレンタルディスクのラベルなどの接着剤がはみ出したり、はがしたあとのあるディスク
- 盤面印刷で作成したラベルのインクが乾いていないディスク

CDの取り扱いかた

- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。汚れがひどいときは、少し湿らせた布で拭いたあと、乾いた布で水気を拭き取ってください。ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは使わないでください。
- 直射日光が当たる場所、車やトランクの中など、高温になるところには置かないでください。
- 市販のCDレンズ用クリーニングディスクは、本機では使わないでください。故障するおそれがあります。

設置時のご注意

- ぐらついた台の上や不安定な場所、振動する場所、ほこりの多い所、直射日光が当たる場所、湿度が高い所、湿気の多い所、風通しの悪い場所、極端に寒い所などには、本機を設置しないでください。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている場所に、本機を設置すると、変色、染みなどが残るこ

とがあります。

- 部屋の暖房を入れた直後など、内部のレンズに水滴がつくことがあります(結露)。正常に動作しないばかりでなく、ディスクや部品を傷めることがあるので、本機を使わないときは、ディスクを取り出してください。結露が生じたときは、ディスクを取り出して、電源を入れたまま約1時間放置し、再び電源を入れ直してください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーの相談窓口にご相談ください。

AC アダプターについてのご注意

- ACアダプターは、お手近なコンセントを使用してください。使用中、不具合が生じたときは、すぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。
- AC アダプターを壁との隙間などの狭い場所に設置して使用しないでください。

使用時の放熱について

- 使用中、本体の温度が上昇することがありますが、故障ではありません。
- 大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側面、底面が熱くなることがあります。このようなときは、火傷などのけがの原因となるため、キャビネットなどに触れないでください。

テレビの色むらについて

本機のスピーカーは防磁型ではありません。そのため、本機をテレビのそばで使うと、テレビ画面に色むらが起こります。テレビから離してお使いください。色むらが起きたら、いったんテレビの電源を切り、15 〜 30分後に再び電源を入れてください。それでも色むらが残る場合は、本機をさらにテレビから離してください。

お手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤溶液を少し含ませた柔らかい布などで拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面を傷めるので、使わないでください。

重要

機器の名称と電気定格は、底面に表示されています。

Bluetooth無線技術について

（CMT-V70Bのみ）

Bluetooth® 無線技術は、パソコンやデジタルカメラなどのデジタル機器同士で通信を行うための近距離無線技術です。およそ10 m程度までの距離で通信を行うことができます。必要に応じて2つの機器をつなげて使うのが一般的な使いかたですが、1つの機器に同時に複数の機器をつなげて使うこともあります。
無線技術によってUSBのように機器同士をケーブルでつなぐ必要はなく、また、赤外線技術のように機器同士を向かい合わせたりする必要もありません。例えば片方の機器をかばんやポケットに入れて使うこともできます。
Bluetooth標準規格は世界中の数千社の会社が賛同している世界標準規格であり、世界中のさまざまなメーカーの製品で採用されています。

Bluetooth機能の対応バージョンとプロファイル

プロファイルとは、Bluetooth機器の特性ごとに機能を標準化したものです。本機は下記のBluetoothバージョンとプロファイルに対応しています。
対応Bluetoothバージョン：
Bluetooth標準規格Ver. 2.1+EDR*1準拠
対応Bluetoothプロファイル：

- A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）：高音質な音楽コンテンツを送受信する。
- AVRCP 1.3（Audio Video Remote Control Profile）：再生、一時停止、停止など、AV機器を操作する。

*1 Enhanced Data Rateの略

ご注意

- Bluetooth機能を使うには、相手側Bluetooth機器が本機と同じプロファイルに対応している必要があります。ただし、同じプロファイルに対応していても、Bluetooth機器の仕様により機能が異なる場合があります。
- Bluetooth無線技術の特性により、送信側での音声・音楽再生に比べて、本機側での再生がわずかに遅れます。

通信有効範囲

見通し距離で約10m以内で使用してください。
以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- Bluetooth接続している機器の間に、人体や金属、壁などの障害物がある場合
- 無線LANが構築されている場所
- 電子レンジを使用中の周辺
- その他の電磁波が発生している場所

他機器からの影響

Bluetooth機器と無線LAN（IEEE802.11b/g）は同一周波数帯（2.4 GHz）を使用するため、無線LANを搭載した機器の近辺で使用すると、電波干渉が発生し、通信速度の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- 本機とBluetooth機器を接続するときは、無線LANから10 m以上離れたところで行う。
- 10 m以内で使用する場合は、無線LANの電源を切る。

他機器への影響

Bluetooth 機器が発生する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBluetooth機器の電源を切ってください。

– 病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
– 自動ドアや火災報知機の近く

ご注意

- 本機は、Bluetooth 無線技術を使用した通信時のセキュリティーとして、Bluetooth標準規格に準拠したセキュリティー機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティーが充分でない場合があります。Bluetooth無線通信を行う際はご注意ください。
- Bluetooth 技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機と接続するBluetooth機器は、Bluetooth SIGの定めるBluetooth標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。ただし、Bluetooth標準規格に適合していても、Bluetooth機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。
- 本機と接続するBluetooth機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入ったり、音が途切れたりすることがあります。

Bluetooth機器について

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機を分解／改造すること

周波数について

本機は2.4 GHz帯の2.4000 GHzから2.4835 GHzまで使用できますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、次の事項に注意してご使用ください。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. **本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。**
2. **万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。**
3. **不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書（裏表紙）をご覧ください。**

2.4FH1

この無線機器は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は10 mです。

使用上のご注意・主な仕様

故障かな？と思ったら

本機を使用中にトラブルが発生した場合は、ソニーの相談窓口にご相談になる前に、もう一度下記の流れに従ってチェックしてください。メッセージ一覧（68ページ）も合わせてご覧ください。メッセージなどが表示されている場合は、書きとめておくことをおすすめします。

手順1　本書で調べる

この「故障かな？と思ったら」をチェックし、該当する項目を調べる。
本書の手順の中にも、様々な情報があります。該当する項目を調べてください。

手順2　「サポート・お問い合わせ」のホームページで調べる

http://www.sony.jp/support/netjuke/で調べる。
最新のサポート情報や、よくあるお問い合わせとその回答を掲載しています。

手順3　それでもトラブルが解決しないときは

ソニーの相談窓口（裏表紙）またはお買い上げ店にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：CMT-V70B/V50
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 故障したときに再生していた音源（ディスクや“ウォークマン”など）：
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

スタンバイランプが点滅しているときは

すぐに電源プラグを抜いて以下の項目を確認してください。

- WM-PORTコネクター 18が ショートしていませんか？
- 交流100V以外のコンセントに接続していませんか？

異常がなければ、再度電源プラグをコンセントにつなぎ、電源を入れてください。それでもトラブルが解決しないときは、ソニーの相談窓口（裏表紙）またはお買い上げ店にご相談ください。

共通

電源が入らない。

- 電源プラグがコンセントにしっかり差し込まれていますか？
- 電源コードセットがACアダプターにしっかりと差し込まれていますか？
- ACアダプターのDCプラグが本体にしっかりと差し込まれていますか？
- 付属品と異なるACアダプターを本体に接続していませんか？

気がつくと表示が消え、スタンバイモードになっている。

- 本機のオートスタンバイ機能によって、無操作または無音の状態が30分経過すると自動的にスタンバイモードに移行します。詳しくは、「オートスタンバイ機能について」をご覧ください（23ページ）。

時計設定や再生タイマーの操作が突然キャンセルされる。

- 無操作の時間が約1分経過すると、時計設定と再生タイマーの操作は自動的にキャンセルされます。始めから操作をやり直してください。

音が出ない。

- VOLUME＋ボタン10を押して音量を上げてください。
- ヘッドフォン端子にヘッドフォンを接続していませんか？
- 外部入力端子に外部機器を正しく接続していますか？
- 本機のファンクションを、外部入力（AUDIO IN）に切り換えていますか？
- 一時的にラジオ局が放送を中止している場合があります。

ブーンという音がする、ノイズがひどい。

- テレビやビデオなどのノイズの原因になりやすい機器から本機を離して設置してください。
- 電源プラグを別のコンセントに接続してみてください。
- 別売りのノイズフィルターの電源コードセットへの装着をおすすめします。ノイズが低減できる場合があります。

リモコンで操作できない。

- リモコンと本体の間の障害物を取り除き、本体を蛍光灯から離して設置してください。
- リモコンを本体のリモコン受光部に向けてください。
- リモコンを本体に近づけて操作してください。

次のページにつづく

CD/MP3ディスク

表示窓に「LOCKED」が表示され、ディスクスロットからディスクを取り出せない。

- お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。

ディスクをディスクスロットに挿入できない。

- 本機の電源は入っていますか？
  本機の電源を入れた直後は、表示窓に「NO DISC」が表示されるまでディスクを挿入しないでください。「NO DISC」が表示されてからディスクを挿入してください。

ディスクやファイルを再生できない。

- 「ファイナライズ処理」が行われていないディスク（書き込み済みのCD-RやCD-RWで、さらに書き込みが可能な状態のディスク）

音飛びする、再生が始まらない。

- ディスクが汚れている、またはディスクに傷がついている。汚れの場合は、拭き取ってください。
- 振動のない場所（安定した台の上など）に本機を設置してください。

再生が1曲目から始まらない。

- シャッフル再生、またはプログラム再生になっていないか確認してください。停止中に再生モードボタン21を繰り返し押すと、表示窓の「PGM」または「SHUF」が消え、ノーマル再生に戻すことができます。

再生が始まるまでに時間がかかる。

- 次のような場合、ディスクの再生が始まるまでにしばらく時間がかかることがあります。
  – ディスク上のファイル構造が極端に複雑になっている。
  – マルチセッション形式で記録したディスク
  – フォルダ数が多いディスク

"ウォークマン"

"ウォークマン"が充電されない。

- "ウォークマン"がWM-PORTコネクター 18に正しく接続されているかどうか確認してください。
- 本機がスタンバイモードの場合、表示切換ボタン29を押して表示モードを切り換えると、本機は充電を終了します。

"ウォークマン"に録音できない

- 「NO SUPPORT」と表示されるときは、お使いの"ウォークマン"が本機での録音に対応していません。下記ホームページの機種別サポートで対応機種を確認してください。
  http://www.sony.jp/support/netjuke/

録音が始まらない。

- 次のような原因が考えられます。
  – "ウォークマン"に空き容量がない。
  – 録音可能なファイルやフォルダ数が上限に達している。

録音が完了前に停止してしまう。

- ファイルやフォルダ数が上限に達した。
- 本機の電源と"ウォークマン"の電源を入れ直してから録音をやり直してください。
- "ウォークマン"の空き容量がなくなった。

録音に失敗する。

- 対応機種以外の“ウォークマン”を使っている。下記ホームページの機種別サポートで対応機種を確認してください。
  http://www.sony.jp/support/netjuke/
- 本機の電源と“ウォークマン”の電源を入れ直してから録音をやり直してください。
- 録音中に、本機から“ウォークマン”をはずした。録音中にこのような操作を行うと、曲の途中まで録音された不完全なファイルが“ウォークマン”に残る場合があります。不完全に録音されたファイルを“ウォークマン”から削除し（41ページ）、録音をやり直してください。問題解決にあたっては、“ウォークマン”の取扱説明書も合わせてご覧ください。それでも問題が解決しない場合は、“ウォークマン”の故障の可能性があります。お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。
- “ウォークマン”への録音や消去を多く繰り返すと、“ウォークマン”内部のファイル構造の断片化によって、録音動作に必要な連続した空き容量が確保できなくなり、録音に失敗することがあります。このような場合には、“ウォークマン”の不要データを削除するなどして空き容量を確保してください。詳しくは、“ウォークマン”の取扱説明書をご覧ください。それでも問題が解決しない場合は、ソニーの相談窓口にご相談ください。

“ウォークマン”からファイルやフォルダを削除できない。

- 「NO SUPPORT」と表示されるときは、お使いの“ウォークマン”が本機での削除に対応していません。
  下記ホームページの機種別サポートで対応機種を確認してください。
  http://www.sony.jp/support/netjuke/
  対応機種以外の“ウォークマン”を使っている場合は、パソコン上で削除してください。詳しくは、“ウォークマン”の取扱説明書をご覧ください。
- 削除中に、本機から“ウォークマン”をはずした、または“ウォークマン”の電源を「切」にした。削除中にこのような操作を行うと、正常に削除が行われません。削除をやり直してください。問題解決にあたっては、“ウォークマン”の取扱説明書も合わせてご覧ください。それでも問題が解決しない場合は、“ウォークマン”の故障の可能性があります。お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。

“ウォークマン”が正常に動作しない。

- 対応機種以外の“ウォークマン”を使うと、次のような問題が発生するおそれがあります。下記ホームページの機種別サポートで対応機種を確認してください。
  http://www.sony.jp/support/netjuke/
  – “ウォークマン”が本機に認識されない。
  – 曲名やフォルダ名（アルバム名）が表示窓に表示されない。
  – 曲が再生されない。

次のページにつづく

– 音飛びする。
– ノイズが混じる。
– 音が歪む。
– 録音が途中で止まる。

音が出ない。

- “ウォークマン”が本機にしっかり挿し込まれていますか？
  本機の電源を切り、“ウォークマン”を接続し直してください。

ノイズ・音飛びが発生する、音が歪む。

- 本機の電源と“ウォークマン”の電源を入れ直してから、“ウォークマン”を接続し直してください。
- 音源そのものにノイズや歪みがないか確認してください。ノイズは録音の過程で混入する場合もあります。このようなときは、録音をやり直してください。
- 音量が大きすぎる。音量を下げて調節してください。
- “ウォークマン”のサウンドモードはノーマル（フラット）でお使いください。ノーマルモード以外の設定で本機で使用すると、音の歪みやノイズの原因となることがあります。

曲名やフォルダ名（アルバム名）が正しく表示されない。

- 録音・転送した音楽データが破損している可能性があります。本機で録音した場合は、録音をし直してください。パソコンを使って“ウォークマン”に曲を転送したデータについては、転送をやり直してください。パソコンからの曲の転送のしかたについては、“ウォークマン”の取扱説明書をご覧ください。
- 本機で表示できる文字は、アルファベットと数字のみです。表示できない文字は、アンダースコア（_）が表示されます。

“ウォークマン”が認識されない。

- 本機の電源と“ウォークマン”の電源を入れ直してから、“ウォークマン”を接続し直してください。
- 対応機種以外の“ウォークマン”を使っている。下記ホームページの機種別サポートで対応機種を確認してください。
  http://www.sony.jp/support/netjuke/
- “ウォークマン”が正常に動作していない可能性があります。“ウォークマン”の取扱説明書をご覧のうえ、問題が解決しない場合には、ソニーの相談窓口にご相談ください。

再生が始まらない。

- “ウォークマン”のホームメニューで「ミュージック」や「ポッドキャスト」など、ライブラリを選択して曲を再生し、停止状態にしてください。それから本機に接続し、►ボタン4（本体では►IIボタン4）を押してください。
- 本機の電源を切り、“ウォークマン”を接続し直し、再度本機の電源を入れてください。
- 対応機種以外の“ウォークマン”を使っている。下記ホームページの機種別サポートで対応機種を確認してください。
  http://www.sony.jp/support/netjuke/
- 再生を開始しているか確認してください。開始していない場合は、►ボタン4（本体では►IIボタン

[4])を押して曲の再生を開始してください。

再生が1曲目から始まらない。

- “ウォークマン”の再生モードがシャッフルなどノーマル再生以外のモードにセットされていないか確認してください。“ウォークマン”の再生モードについては、“ウォークマン”の取扱説明書をご覧ください。

ラジオ

雑音が入る(「TUNED」や「STEREO」が点滅する)、または放送が受信できない。

- アンテナを正しく接続してください。
- 受信状態のよい場所や方向を探し、アンテナを設置し直してください。
- アンテナを本体や他のAV機器から離してください。
- 本機の近くにある電気器具の電源を切ってください。

複数の放送局が同時に聞こえる場合。

- アンテナの場所や方向を調整してアンテナを設置し直してください。
- アンテナを(コードクリップなどを使って)束ね、長さを調整してください。

お買い上げ時の状態にリセットするには

「故障かな?と思ったら」の該当項目をチェックしても正常に動作しない場合は、次の手順で本機をお買い上げ時の状態にリセットしてください。本体のボタンを使ってリセットを行います。

1 **電源プラグをコンセントから抜き、再度接続して、電源を入れる。**

2 **■ボタン[5]と本体のI/⏻ボタン[13]を「RESET」が表示されるまで押し続ける。**
ラジオ局のプリセット設定や時計、タイマーなどの設定が、お買い上げ時の状態に戻ります。リセットを行ってもまだ正常に動作しない場合は、ソニーの相談窓口にご相談ください。

メッセージ一覧

本機の使用中に、次のようなメッセージが表示、または点滅することがあります。

CAN'T PLAY
CD-ROMやDVDディスクなど、再生できないディスクを挿入した。

CHARGING
電源がオフの状態で"ウォークマン"を充電しているときに表示されます。

CHECKING
「WALKMAN」のときに、シフトボタン25を押しながら、曲削除ボタン24を押した。
"ウォークマン"内のファイルを読み込み、ファイルを削除するモードへ移行中です。

COMPLETE
- FM/AM局のプリセット登録が正常に完了した。
- "ウォークマン"の曲、フォルダの削除が完了した。

DATA ERROR
"ウォークマン"内の曲を削除するとき、削除対象の曲を再生しようとしたら再生できないファイルを選んだ。

DEVICE FULL
"ウォークマン"の空き容量がない。

ERASE ERROR
"ウォークマン"の曲やフォルダ（アルバム）の削除に失敗した。

ERROR
"ウォークマン"を本機から抜いて、再び接続し直してください。

FATAL ERROR
曲の録音中や削除中に"ウォークマン"を取りはずした。

FOLDER FULL
録音可能なフォルダ数が上限に達している。

FULL
プログラム登録中に26曲目を登録しようとした。

LOCKED
ディスクスロットがロックされ、ディスクが取り出せない。ソニーの相談窓口にご相談ください。

NEW TRACK
ラジオまたは外部入力からの音声を録音中に新しいトラックが作られた。

NO DEVICE
- "ウォークマン"が接続されていない状態で、ウォークマン録音 準備／スタートボタン2またはウォークマン録音 CDワンタッチボタン3を押した。
- "ウォークマン"が接続されていないときに、シフトボタン25を押しながら、曲削除ボタン24を押した。

NO DISC
ディスクが入っていない、または本機では再生できないディスクをセットした。

NO STEP
プログラムが登録されていない。

NO SUPPORT

お使いの"ウォークマン"が、本機での録音、本機での曲やフォルダの削除に対応していない。

NO TRACK

- "ウォークマン"に削除可能な曲がない。
- ディスクに本機で再生できるファイルが入っていない。

NOT USED

使用できないボタンを押した。

PUSH STOP

再生中に再生モードボタン21を押した。

READING

ディスクの情報を読み込んでいる。このとき、いくつかのボタンは操作できなくなります。

TIME NG

再生タイマーの設定で、開始時刻と終了時刻を同じに設定した。

TRACK FULL

録音可能なファイル数が上限に達している。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

ソニーの相談窓口やお買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではマイクロハイファイコンポーネントシステムの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後8年間保有しています。
ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

次のページにつづく

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

主な仕様

アンプ部

実用最大出力

20 W + 20 W（8Ω、JEITA*）

入・出力端子

外部入力端子

ステレオミニジャック700 mV（47 kΩ）

🎧（ヘッドホン）端子

ステレオミニジャック8Ω以上

"ウォークマン"接続端子（WM-PORT）

WM-PORT搭載"ウォークマン"接続用、DC 5V, 500 mA

CDプレーヤー部

形式

コンパクトディスクデジタルオーディオシステム

周波数特性

20 Hz ～ 20 kHz

S/N比

90 dB以上

ダイナミックレンジ

90 dB以上

チューナー部

回路方式

FM/AMチューナー、スーパーヘテロダイン方式

受信周波数

FM：76.0 MHz ～ 90.0 MHz（100 kHzステップ）
AM：531 kHz ～ 1,602 kHz（9 kHzステップ）

アンテナ端子

FMアンテナ、AMループアンテナ一体型

スピーカー部

形式

フルレンジスピーカー：65 mm
コーン型
パッシブラジエーター：67 mm
×108 mm

定格インピーダンス

8 Ω

その他

電源（ACアダプター）

入力：AC 100 V － 240 V、
50 Hz/60 Hz
出力：DC 19.5 V 3.9 A

ACアダプターは「JIS C 61000-3-2適合品」です。

消費電力

24 W（通常動作時（JEITA*））

最大外形寸法（幅×高さ×奥行き、最大突起部含む）

約 449 mm×212 mm×
137（95）mm

質量

約 2.8 kg

* JEITA（電子情報技術産業協会）規格による測定値です。

Bluetooth部（CMT-V70Bのみ）

通信方式

Bluetooth標準規格Ver.2.1 +
EDR[*1]

出力

Bluetooth標準規格Power
Class 2

最大通信距離

見通し距離約10 m[*2]

使用周波数帯域

2.4 GHz 帯（2.4000 GHz ～
2.4835 GHz）

変調方式

FHSS

対応Bluetoothプロファイル[*3]

A2DP（Advanced Audio
Distribution Profile）
AVRCP1.3（Audio Video
Remote Control Profile）

対応コーデック[*4]

SBC[*5]

対応コンテンツ保護

SCMS-T方式

伝送帯域（A2DP）

20 Hz ～ 20,000 Hz（44.1 kHz
サンプリング時）

[*1] Enhanced Data Rate の略
[*2] 通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わる場合があります。
[*3] Bluetooth プロファイルとは、Bluetooth 機器の特性ごとに機能を標準化したものです。
[*4] 音声圧縮変換方式のこと
[*5] Subband Codec の略

付属品

リモコン（RM-AMU143または
RM-AMU144）（1）／リモコン用単3形（R6）乾電池（2）／ ACアダプター（1）／電源コードセット（1）／ FM・AMアンテナ（1）／保護クッション（2）／取扱説明書（本書）（1）／ソニーご相談窓口のご案内（1）／保証書（1）／ユーザー登録カード（1）／本機の使用上の注意事項（CMT-V70Bのみ）（1）

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

待機時消費電力：0.5W

省エネ：オートスタンバイ機能搭載
省資源：包装体積40%削減（2010年度当社従来モデルNAS-V5/V7M比）
重量20%削減（2010年度当社従来モデルNAS-V5/V7M比）

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。 **http://www.sony.jp/support/**

使い方相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・ **0120-333-020**
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・ **0466-31-2511**

修理相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・ **0120-222-330**
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・ **0466-31-2531**
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「306」＋「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

FAX（共通） 0120-333-389

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

S-master
Digital Amplifier

4-418-713-**03** (1)